

(様式第10)

奈医病管第134号

令和 7年 10月 3日

厚生労働大臣 殿

開設者名 公立大学法人 奈良県立医科大学
理事長 細井 裕司

奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒 634-8521 奈良県橿原市四条町840番地
氏名	公立大学法人 奈良県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

奈良県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒 634-8522 奈良県橿原市四条町840番地
電話 (0744)22-3051

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
「呼吸器内科」「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は呼吸器・アレルギー内科で、「消化器内科」「代謝内科」の診療内容は消化器・代謝内科で、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病・内分泌内科で、「神経内科」の診療内容は脳神経内科で、「リウマチ科」の診療内容はリウマチセンターで提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				無			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
「消化器外科」「乳腺外科」「小児外科」の診療内容は消化器外科・小児外科・乳腺外科で、「内分泌内科」の診療内容は耳鼻咽喉・頭頸部外科で診療している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				無			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で診療している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	消化器・代謝内科	2	呼吸器・アレルギー内科	3	脳神経内科	4	消化器外科・小児外科・乳腺外科	5	耳鼻咽喉・頭頸部外科
6	形成外科	7	病理診断科	8	リハビリテーション科	9	糖尿病・内分泌内科	10	腫瘍内科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
108	9	0	0	875	992

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	661	45.9	706.9
歯科医師	16	6.4	22.4
薬剤師	64	3.4	67.4
保健師	1	2.7	3.7
助産師	70	1.3	71.3
看護師	1112	27.7	1139.7
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	4	0	4
管理栄養士	16	2.2	18.2

職種	員数
看護補助者	32
理学療法士	32
作業療法士	11
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	42
栄養士	0
歯科技工士	3
診療放射線技師	66

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	91
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	35	
その他の技術員	30	
事務職員	208	
その他の職員	0	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	66	眼科専門医	10
外科専門医	36	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	10	放射線科専門医	20
小児科専門医	29	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	32
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	24	救急科専門医	14
		合計	307

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (吉川 公彦) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

医療安全管理責任者(平成30年4月1日～令和2年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	750 人	17 人	767 人
1日当たり平均外来患者数	2,240 人	109 人	2,349 人
1日当たり平均調剤数	4485.5		剤
必要医師数	206		人
必要歯科医師数	9		人
必要薬剤師数	57		人
必要(准)看護師数	463		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	人工呼吸装置	その他の救急蘇生装置	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー
集中治療室	579.06 m ²	鉄筋コンクリート	24 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	263.6	m ²	病床数	21 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	67.9 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	194.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	尿検査システム等		
細菌検査室	174.1 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析システム等		
病理検査室	176.7 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム等		
病理解剖室	266.2 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電動解剖ノコリークットシステム等		
研究室	1232.8 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	各種実験・研究装置等		
講義室	378.2 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	317 人
図書室	1915.5 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	蔵書数	105,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	98.3	%	逆紹介率	112.1	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		16,690		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		23,280		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,731		人
	D: 初診の患者の数		20,775		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
中村 猛	京都府立医科大学 附属病院	○	京都府立医科大学附属 病院医療安全推進部長 であり、医療にかかる 安全に関する見識を有 するため。□	無	1
加藤 高志	加藤高志法律事務所		医療に関する訴訟経験 が豊富であり、法律に 関する見識を有するた め。	無	1
森下 順子	ボランティアグルー プラポール		病院の状況への理解が 深く、医療を受ける側の 立場からの客観的意見 を得られるため。	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 2024年度 提供実績なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	28
2	筋萎縮性側索硬化症	33	57	特発性拡張型心筋症	69
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	33
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	25	60	再生不良性貧血	36
6	パーキンソン病	281	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8	ハンチントン病	9	63	特発性血小板減少性紫斑病	10
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	8	65	原発性免疫不全症候群	19
11	重症筋無力症	102	66	IgA腎症	160
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	59
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	118	68	黄色靱帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靱帯骨化症	62
15	封入体筋炎	12	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クローウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	45
17	多系統萎縮症	24	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	87	73	下垂体性TSH分泌亢進症	5
19	ライソゾーム病	12	74	下垂体性PRL分泌亢進症	11
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	31	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	20
23	プリオン病	7	78	下垂体前葉機能低下症	137
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	58	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	56
30	遠位型ミオパチー	6	85	特発性間質性肺炎	52
31	ベスレムミオパチー	1	86	肺動脈性肺高血圧症	23
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	10
34	神経線維腫症	30	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	15
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	15	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	84
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	11
40	高安動脈炎	27	95	自己免疫性肝炎	35
41	巨細胞性動脈炎	23	96	クローン病	82
42	結節性多発動脈炎	11	97	潰瘍性大腸炎	191
43	顕微鏡的多発血管炎	65	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	18	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	パージャール病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	2
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	215	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	128	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	80	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	32	107	若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	53	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人発症ステル病	18	109	非典型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	5	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	1
113	筋ジストロフィー	34	168	エーラス・ダンロス症候群	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	4
117	脊髄空洞症	4	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	4	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	1
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー病	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	2	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	3	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	4	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	1
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	1
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	212	三尖弁閉鎖症	1
158	結節性硬化症	7	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	2	215	ファロー四徴症	2
161	家族性良性慢性天疱瘡	1	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	11	218	アルポート症候群	0
164	眼皮膚白皮症	2	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	8

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	5	276	軟骨無形成症	1
222	一次性ネフローゼ症候群	115	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	8	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
225	先天性腎性尿崩症	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
227	オスラー病	6	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	283	後天性赤芽球癆	3
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	5	285	ファンconi貧血	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	11
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
235	副甲状腺機能低下症	3	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸型)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	0
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性降炎	1
244	メープルシロップ尿症	3	299	嚢胞性線維症	2
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	28
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	2
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	2
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	27
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	1	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無 β リポタンパク血症	1	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	3	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	1	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	11	326	大理石骨病	2
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	1	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・『特定機能病院入院基本料』 一般病棟:入院患者に対する看護職員の配置割合 7対1以上	・『精神科救急搬送患者地域連携紹介加算』
・『医療DX推進体制整備加算』	・『術後疼痛管理チーム加算』
・『救急医療管理加算』	・『後発医薬品使用体制加算3』
・『超急性期脳卒中加算』	・『病棟薬剤業務実施加算1及び2』
・『診療録管理体制加算3』	・『データ提出加算2』
・『医師事務作業補助体制加算2 25対1』	・『入退院支援加算1(一般病棟)・3』 地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算有
・『25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上)』 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護補助体制充実加算2有	・『認知症ケア加算1』
・『看護職員夜間配置加算1 12対1』	・『せん妄ハイリスク患者ケア加算』
・『看護補助加算3(D2病棟のみ)』 看護補助体制充実加算有	・『精神疾患診療体制加算』
・『療養環境加算』	・『精神科急性期医師配置加算1』
・『重症者等療養環境特別加算』	・『排尿自立支援加算』
・『無菌治療室管理加算1及び2』	・『地域医療体制確保加算』
・『放射線治療病室管理加算2』	・『救命救急入院料3・4』 算定上限日数、精神疾患診断治療初回加算、救急体制充実加算1、小児加算、早期離床・リハビリテーション加算有
・『緩和ケア診療加算』	・『特定集中治療室管理料1』 早期離床・リハビリテーション加算、早期栄養介入管理加算、算定上限日数、小児加算有
・『精神科応急入院施設管理加算』	・『脳卒中ケアユニット入院医療管理料』
・『精神病棟入院時医学管理加算』	・『新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料』
・『精神科身体合併症管理加算』	・『総合周産期特定集中治療室管理料』 成育連携支援加算有
・『精神科リエゾンチーム加算』	・『新生児治療回復室入院医療管理料』
・『摂食障害入院医療管理加算』	・『一類感染症患者入院医療管理料』
・『栄養サポートチーム加算』	・『小児入院医療管理料1』 プレイルーム加算(保育士1名の場合)、無菌治療管理加算1有
・『医療安全対策加算1』	・『精神科救急急性期医療入院料』 看護職員夜間配置加算、精神科救急医療体制加算1有
・『感染対策向上加算1』 指導強化加算 有	・『精神科救急・合併症入院料』 看護職員夜間配置加算有
・『患者サポート体制充実加算』	・『地域歯科診療支援病院歯科初診料』
・『重症患者初期支援充実加算』	・『歯科外来診療感染対策加算3』

・『褥瘡ハイリスク患者ケア加算』	・『歯科外来診療医療安全対策加算2』
・『ハイリスク妊娠管理加算』	・『歯科診療特別対応連携加算』
・『ハイリスク分娩管理加算』	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料2注2	・薬剤管理指導料
・遠隔モニタリング加算(心臓ペースメーカー指導管理料)	・医療機器安全管理料1及び2
・糖尿病合併症管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・救急患者連携搬送料
・難治性がん性疼痛緩和指導管理加算(がん性疼痛緩和指導管理料)	・在宅患者訪問看護・指導料(緩和ケア・褥瘡ケア・人工肛門ケア及び人工膀胱ケア)
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ及びニ	・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)
・外来緩和ケア管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)、(造血幹細胞移植後)	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・持続血糖測定器加算1及び2
・小児運動器疾患指導管理料	・遺伝学的検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・骨髄微小残存病変量測定
・婦人科特定疾患治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査1及び2
・腎代替療法指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・一般不妊治療管理料	・先天性代謝異常症検査
・生殖補助医療管理料1	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・下肢創傷処置管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来放射線照射診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・外来腫瘍化学療法診療料1 連携充実加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・療養・就労両立支援指導料(相談支援加算)	・検体検査管理加算(I)、検体検査管理加算(IV)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・国際標準検査管理加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝カウンセリング加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・外来排尿自立指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ハイリスク妊産婦連携指導料1及び2	・胎児心エコー法
・こころの連携指導料(II)	・ヘッドアップティルト試験

・人工臓器検査	・小児鎮静下MRI撮影加算
・皮下連続式グルコース測定	・頭部MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・外来化学療法加算1
・光トポグラフィー	・無菌製剤処理料
・脳波検査判断料1	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算、急性期リハビリテーション加算
・単線維筋電図	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算、急性期リハビリテーション加算
・神経学的検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・補聴器適合検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算、急性期リハビリテーション加算
・ロービジョン検査判断料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算、急性期リハビリテーション加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・がん患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・通院・在宅精神療法(児童思春期精神科専門管理加算)
・センチネルリンパ節生検(片側)	・通院・在宅精神療法(療養生活継続支援加算)
・経頸静脈的肝生検	・通院・在宅精神療法(児童思春期支援指導加算)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・救急患者精神科継続支援料
・経気管支凍結生検法	・認知療法・認知行動療法1
・画像診断管理加算1、4	・精神科作業療法
・遠隔画像診断	・精神科ショート・ケア(大規模なもの)、(小規模なもの)
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)	・精神科デイ・ケア(大規模なもの)、(小規模なもの)
・ポジトロン断層撮影((アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)のロ)、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影((アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)のロ)	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・CT撮影及びMRI撮影	・医療保護入院等診療料
・冠動脈CT撮影加算	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・外傷全身CT加算	・硬膜外自家血注入
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)、エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・心臓MRI撮影加算	・人工腎臓
・乳房MRI撮影加算	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術

・ストーマ合併症加算	・人工中耳植込術
・人工膵臓療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算算定する場合に限る。)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・皮膚移植術(死体)	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・自家脂肪注入	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の処理骨再建加算	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緊急穿頭血腫除去術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭蓋内腫瘍摘出術(脳腫瘍覚醒下マッピング加算を算定する場合に限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・脳血栓回収療法連携加算	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除および肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)、脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・頭蓋内電極植込術(7本以上の電極による場合)	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・舌下神経電気刺激装置植込術	・内視鏡下筋層切開術
・角結膜悪性腫瘍切除術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの、エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの及びアテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下弁形成術
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下肝切除術

・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁置換術	・生体部分肝移植術
・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの及び経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	・腹腔鏡下膵中央切除術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及び交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及び交換術(リードレスペースメーカーによるもの)	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)、(側方)	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・生体腎移植術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・尿道狭窄グラフト再建術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術/胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・精巣温存手術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・精巣内精子採取術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下仙骨陰固定術	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下仙骨陰固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製

・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・デジタル病理画像による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・体外式膜型人工肺管理料	・看護職員処遇改善評価料67
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)	・入院ベースアップ評価料85
・輸血管管理料Ⅰ	・歯科治療時医療管理料
・貯血式自己血輸血管管理体制加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・自己生体組織接着剤作成術	・有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査
・同種クリオプレシピテート作製術	・精密触覚機能検査
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・麻酔管理料(Ⅰ) 周術期薬剤管理加算	・顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るものに限る。)
・麻酔管理料(Ⅱ) 周術期薬剤管理加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・放射線治療専任加算	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
・外来放射線治療加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・高エネルギー放射線治療	・印象採得、咬合採得、仮床試適の歯科技工士連携加算 1、光学印象の光学印象歯科技工士連携加算
・一回線量増加加算	・光学印象
・強度変調放射線治療(IMRT)	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算 1・2
・体外照射呼吸性移動対策加算	・歯科矯正診断料
・定位放射線治療	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・口腔病理診断管理加算2
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
実績なし	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	概ね週1回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	24
	剖検率(%)	4.18

主)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
匂いを多次元の価値に変換する神経回路機構の解明と質感の客観的評価法の構築	眞部 寛之	第一生理学	3,900,000	補	文部科学省
リソソーム構成タンパク質のターンオーバーを担う分子機構と老化における役割の解明	中村 修平	生化学	4,680,000	補	文部科学省
組織学と複合した単一細胞DNAメチル化解析法による原始卵胞淘汰過程の解明	栗本 一基	発生・再生医学	12,740,000	補	文部科学省
疫学と臨床医学、情報工学の融合によるデータベース医学の標準的疾患定義の開発	野田 龍也	公衆衛生学	8,060,000	補	文部科学省
医療・介護・健診連結データを用いた意思決定に資するリアルワールドエビデンスの構築	今村 知明	公衆衛生学	9,230,000	補	文部科学省
ゲノム刷り込み機構の機能的多様性を明らかにする種間インプリントーム比較解析	小林 久人	発生・再生医学	4,160,000	委	文部科学省
収縮性の保持された心不全の発症・進展機序の解明に関する研究	斎藤 能彦	循環器内科学	5,590,000	委	文部科学省
医療・介護・健診連結ビッグデータを用いた内分泌代謝疾患のリアルワールド解析	西岡 祐一	公衆衛生学	2,990,000	委	文部科学省
子宮内細菌叢形成の探求とそれに基づいたプレコンセプションケアの開発	木村 文則	産婦人科学	5,200,000	委	文部科学省
喉頭全摘出者の退院後のQOL向上を目指す継続看護チームの介入: RCTによる縦断調査	小竹 久実子	在宅看護学	4,160,000	委	文部科学省
自律的な初期胚形成が可能な全能性状態の誘導	堀江 恭二	第二生理学	3,510,000	委	文部科学省
生殖と寿命のバランス制御の中核を担う組織間情報伝達カスケードの解明	中村 修平	生化学	5,590,000	委	文部科学省
肝癌カテーテル治療における新規DDSの臨床実用化に向けた開発と動注免疫療法への応用	田中 利洋	放射線診断・IVR学	2,730,000	委	文部科学省
オンチップ血管モデルを基盤としたSturge-Weber症候群の分子病態解明と新規治療法開発	坂野 公彦	第二生理学	4,290,000	委	文部科学省
肺線維症における病原性線維芽細胞の持続活性化制御による新規治療戦略の確立	北畠 正大	免疫学	5,070,000	委	文部科学省
X染色体不活性化機構を応用したモザイクマウスを用いた細胞増殖優位性獲得機序の解明	新熊 悟	皮膚科学	7,410,000	委	文部科学省
医療環境と病院排水における薬剤耐性菌の実態把握と耐性遺伝子伝播要因の解明	鈴木 由希	微生物感染症学	4,940,000	委	文部科学省
表情認知障害を起点とする自閉スペクトラム症の二次障害の成立過程の解明	岡田 俊	精神医学	1,040,000	委	文部科学省
足部・足関節周囲の筋腱モーメントアームが3次元動態に及ぼす影響の検討	宮本 拓馬	整形外科学	1,268,176	委	文部科学省
がん骨転移診療システム構築に向けての取り組み	田中 誠人	整形外科学	130,000	委	文部科学省
女性医師のアカデミックキャリア向上を目指した新たな教育プログラムの開発	須崎 康恵	女性研究者・医師支援センター	1,560,000	委	文部科学省
自殺予防のための自閉スペクトラム症のある子どもの自殺リスクと自尊感情の検討	太田 豊作	人間発達学	1,040,000	委	文部科学省
未知なものに対する不安・葛藤と行動を調節する神経回路の解明	堀井 謹子	第一解剖学	520,000	委	文部科学省
淡水棲マミズクラゲがもつ3つの謎(性決定、芽体形成、生物伝播)の解明に迫る	小林 千余子	生物学	780,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
登上線維の結合パートナー選択とプルキンエ細胞の個性	金子 涼輔	医学研究支援センター	1,690,000	委	文部科学省
線虫の冬眠制御に関わる神経ネットワークと寿命制御の相互作用解析	堀川 誠	生化学	476,770	委	文部科学省
脳内に局在するOlig2由来アストロサイト亜集団の機能解析	辰巳 晃子	第二解剖学	390,000	委	文部科学省
コロナ禍とパーキンソン病患者:うつ症状の経年変化、睡眠・身体活動測定値の前後比較	形岡 博史	脳神経内科学	1,040,000	委	文部科学省
オートファジー関連神経筋疾患におけるタンパク質恒常性の破綻機序解明	杉江 和馬	脳神経内科学	1,300,000	委	文部科学省
超高速超音波イメージングを用いた血流解析による頸動脈プラーク不安定性評価	斎藤 こずえ	脳卒中センター	1,300,000	委	文部科学省
ミトコンドリアからのシグナルは放射線による炎症誘発に關与するか?	小橋川 新子(菓子野新子)	ラジオアイソトープ実験施設	1,430,000	委	文部科学省
血友病Aとフォンウィルブランド病治療薬の半減期を規定するクリアランス受容体の探索	荻原 建一	小児科学	780,000	委	文部科学省
抗酸化Nrf2経路賦活によるPBCの病態改善 —ヘスペリジンを用いた新治療—	守屋 圭	消化器内科学	1,430,000	委	文部科学省
血液凝固制御因子ADAMTS13による急性肝不全新規治療法とバイオマーカーの開発	高谷 広章	消化器内科学	1,690,000	委	文部科学省
ネプリライシンの心不全改善効果に寄与する基質の優位性の解明	中川 仁	循環器内科学	1,560,000	委	文部科学省
肺由来コンポジットマテリアルによる多能性幹細胞から肺オルガノイドの創出と機能解析	北村 知嵩	病原体・感染防御医学	1,040,000	委	文部科学省
後天性・血栓性血小板減少性紫斑病の動物モデルの作成	松本 雅則	血液内科学	1,300,000	委	文部科学省
高病原性を示すカルバペネマーゼ産生肺炎桿菌の分子疫学と治療法構築に向けた研究	矢野 寿一	微生物感染症学	1,170,000	委	文部科学省
クローン病肛門病変に対する組織工学および免疫制御による新規局所療法の開発	久下 博之	消化器・総合外科学	1,560,000	委	文部科学省
肝細胞癌に対する血管新生阻害併用免疫療法における耐性機序の解明と新規治療法の開発	安田 里司	消化器・総合外科学	2,470,000	委	文部科学省
FFPE標本に対する超高感度微量解析のための革新的cDNA合成法の開発	宮尾 晋太郎	がんゲノム・腫瘍内科学	1,820,000	委	文部科学省
人工赤血球を用いた人工心肺充填による臓器保護効果	武村 潤一	胸部・心臓血管外科学	650,000	委	文部科学省
子宮癌手術中における電極付き尿道カテーテルを用いた排尿機能モニタリングの有用性	大井 彩子	中央手術部	1,040,000	委	文部科学省
救命救急センターで分離されたESBL産生大腸菌の患者背景と分子疫学的解析	野村 泰充	集中治療部	1,430,000	委	文部科学省
敗血症の原因菌に対する迅速同定検査法の確立	川井 廉之	救急医学	910,000	委	文部科学省
チェックポイント分子HIF1 α をゲノム編集したNK細胞による膠芽腫治療法の開発	中澤 務	脳神経外科学	780,000	委	文部科学省
脳虚血に対する脂肪組織由来幹細胞とエクソソーム治療の基盤的研究	中瀬 裕之	脳神経外科学	1,170,000	委	文部科学省
ミトコンドリアカルシウムユニポーターを介した虚血耐性メカニズムの解明	中川 一郎	脳神経外科学	390,000	委	文部科学省
小児大腿骨頭壊死に対する改良骨髄間葉系幹細胞を用いた新規治療法の開発	藤井 宏真	整形外科	780,000	委	文部科学省
子宮内膜症に対する酸化的自爆死を誘導する非ホルモン治療法の開発	今中 聖悟	産婦人科学	1,300,000	委	文部科学省
新たな腫瘍マーカー組織因子経路インヒビター2による卵巣腫瘍の良悪性の鑑別	松原 翔	産婦人科学	1,300,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん関連血栓症における新規卵巣癌マーカーTFPI-2の作用機序の解明	山田 有紀	産婦人科学	2,080,000	委	文部科学省
新たな磁気共鳴緩和測定法を用いた子宮内膜症関連不妊症の重症度の非侵襲的予知	吉元 千陽	産婦人科学	1,300,000	委	文部科学省
ARID1A遺伝子変異卵巣癌細胞癌に対するCDC6による合成致死メカニズムの解明	山中 彰一郎	産婦人科学	1,170,000	委	文部科学省
頭頸部癌患者から作成したスフェロイドを用いたがん微小環境によるEMT誘導の解析	木村 隆浩	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,300,000	委	文部科学省
生体リズムに着目した緑内障患者の新たな眼外・眼内因子の探索:前向きコホート研究	吉川 匡宣	眼科学	1,300,000	委	文部科学省
PIKKファミリー関連DNA修復機構を標的とする新規口腔がん治療戦略	仲川 洋介	口腔外科学	780,000	委	文部科学省
ハイデガーを手がかりにした現象学的医学哲学の構築	池辺 寧	哲学	650,000	委	文部科学省
健康長寿のための新しい生活様式—地域前向きコホート研究と公的統計を用いた研究—	富岡 公子	県民健康増進支援センター	1,040,000	委	文部科学省
がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断学習支援プログラムの開発	栗田 麻美	在宅看護学	910,000	委	文部科学省
低リスク出産の医療の質指標を用いた医療ケアの改善に向けたプログラムの運用	上田 佳世	母性看護学	780,000	委	文部科学省
自閉スペクトラム症児の母親の情緒的巻き込まれに着目した支援方法の構築	川上 あずさ	小児看護学	910,000	委	文部科学省
思春期に骨肉腫を経験する子どもと親の闘病プロセスの解明	渋谷 洋子	看護実践・キャリア支援センター	650,000	委	文部科学省
喉頭摘出者の暮らしの再構築に向けた訪問看護師による支援の探究	羽場 香織	在宅看護学	1,040,000	委	文部科学省
ミトコンドリア標的化による抗がん剤誘導心筋障害の改善	佐々木 隆光	分子病理学	1,560,000	委	文部科学省
糖化HMG1の糖尿病性フレイルにおける役割とその抑制法の検討	川原 勲	分子病理学	1,690,000	委	文部科学省
リボソーム化した複合抗酸化剤による人工赤血球のメタ化抑制とその機構の解明	山田 孫平	化学	1,040,000	委	文部科学省
トーリック多様体の偏極構造と凸多面体の関係の研究	川口 良	臨床数学	650,000	委	文部科学省
因脳皮質オフライン情報処理に潜む機能構造	上田 壮志	第一生理学	2,080,000	委	文部科学省
転移臓癌における抗癌剤抵抗性能獲得機序の解明とその応用	米田 明弘	動物実験施設	1,430,000	委	文部科学省
真皮免疫細胞に着目した痛覚新規センシング機構の解明	田中 達英	第二解剖学	1,170,000	委	文部科学省
自閉スペクトラム症におけるマクロフェージの食能に着目した病態解明	山内 崇平	精神医学	1,820,000	委	文部科学省
社会的経験により発達する前頭前野-小脳回路の解明 中脳水道周囲灰白質を中心に	芳野 浩樹	精神医学	1,300,000	委	文部科学省
がんの低酸素環境下におけるナノテクノロジーを用いた新規IVR治療の開発	西尾福 英之	緩和ケアセンター	1,950,000	委	文部科学省
イメージング質量分析とMRIによるGlymphatic systemの比較解析	宮坂 俊輝	総合画像診断センター	1,040,000	委	文部科学省
肝細胞癌に対する新規DDSを用いたレンパチニブ肝動注療法の開発	茶之木 悠登	総合画像診断センター	650,000	委	文部科学省
肺血栓塞栓症における血管閉塞を血液マーカーで診断する方法の開発	早川 正樹	がんゲノム・腫瘍内科学	1,430,000	委	文部科学省
マウス肺気腫モデルにおける肺胞再生の定量的形態測定とヒト肺気腫画像との相同性	室 繁郎	呼吸器内科学	1,560,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
トレース機能を有する人工培養毛iHairを用いたWntシグナルによる発毛制御	王寺 幸輝	病原体・感染防御医学	1,560,000	委	文部科学省
単球によるType2炎症反応の抑制機構の解明と臨床応用	宮川 史	皮膚科学	1,560,000	委	文部科学省
血管透過性亢進病態における血管外凝固第IX因子の役割解明	坂田 飛鳥	血栓止血医薬生物学共同研究講座	1,430,000	委	文部科学省
高ざり応力が招く止血異常に関する研究	堀内 久徳	血液内科学	1,300,000	委	文部科学省
大規模な大腸菌ゲノム解析による病原性・耐性遺伝子の共存関係および表現形質の特定	関根 隆博	感染症内科学	2,210,000	委	文部科学省
塩誘導キナーゼ結合インタラクトームを介するステロイドホルモン産生組織の機能解析	秦野 修	ラジオアイソトープ実験施設	1,560,000	委	文部科学省
T細胞不活化分子CD200を標的とした神経芽腫に対する新規治療法の開発	黒田 靖浩	消化器・総合外科学	1,560,000	委	文部科学省
大動物モデルによる胸腺上皮性腫瘍のセンチネルリンパ節同定の探索的実験	濱路 政嗣	胸部・心臓血管外科学	1,560,000	委	文部科学省
プレハビリテーションによる虚血後運動障害予防効果とカベオリン1発現に関する研究	恵川 淳二	集中治療部	1,430,000	委	文部科学省
小児脊椎手術での電極付き尿道カテーテルを使用した術中排尿機能モニタリングの開発	小川 裕貴	麻酔科学	1,430,000	委	文部科学省
排尿機能評価として尿道括約筋から記録する球海綿体反射モニタリングの開発	植村 景子	中央手術部	1,170,000	委	文部科学省
腸管虚血再灌流による腸管傷害・肝傷害の発生・進展に対するADAMTS13の影響	西尾 健治	総合医療学	1,690,000	委	文部科学省
急性呼吸窮迫症候群の病態へのADAMTS13への影響	西村 信城	在宅医療支援センター	1,300,000	委	文部科学省
超らせん構造型ミトコンドリアDNAの敗血症における機能的役割の解明	中平 毅一	薬理学	1,560,000	委	文部科学省
糖化PEG修飾型免疫チェックポイント抗体とNK細胞を用いた集学的免疫細胞治療の開発	前岡 良輔	脳神経外科学	1,040,000	委	文部科学省
悪性髄膜腫に対する末梢血および臍帯血由来NK細胞を用いた免疫細胞療法の開発	松田 良介	脳神経外科学	1,300,000	委	文部科学省
臍帯血由来CAR-NK細胞による膠芽腫治療法の開発	西村 文彦	脳神経外科学	1,300,000	委	文部科学省
再生神経インターフェイスによる有痛性断端神経腫の新規治療法の開発	面川 庄平	寄附講座手の外科講座	1,430,000	委	文部科学省
膀胱癌 BCG 療法の至適化を目指した腸内微生物メタボロゲノミクス解析	三宅 牧人	泌尿器科学	1,950,000	委	文部科学省
間質性膀胱炎に関する腸内細菌叢での脂質代謝および血液バイオマーカーの開発	鳥本 一匡	泌尿器科学	1,560,000	委	文部科学省
新たな経腔光学プローブによる子宮内膜症関連不妊症の非侵襲的予知	重富 洋志	産婦人科学	2,210,000	委	文部科学省
Dydrogesterone経口投与の胎児発育不全に及ぼす影響の研究	木村 麻衣	産婦人科学	1,690,000	委	文部科学省
ヒドロキシクロロキンの習慣流産と妊娠高血圧症候群発症への影響に関する検討	脇 啓太	産婦人科学	1,040,000	委	文部科学省
耳鳴動物モデルの普遍化と治療法開発	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,300,000	委	文部科学省
軟骨伝導聴力および軟骨伝導補聴器の評価法に関する検討	西村 忠己	めまい・難聴センター	1,300,000	委	文部科学省
メニエール病のめまい発作の機序の解明	今井 貴夫	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	910,000	委	文部科学省
動物実験モデルを用いた耳鳴治療の再検証と新規治療法の開発	山下 哲範	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,690,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
埋入トルク値の違いによるインプラント体周囲骨組織に与える影響と最適トルク値の解明	村上 和宏	口腔外科学	1,300,000	委	文部科学省
動物と密に接する環境が薬剤耐性菌授受と腸内細菌叢に与える影響	中野 章代	微生物感染症学	1,560,000	委	文部科学省
入浴事故予防にむけた疫学研究	佐伯 圭吾	疫学・予防医学	1,170,000	委	文部科学省
医療施設のクローン病癌化サーベイランスの認識とクローン病患者のセルフモニタリング	石橋 千夏	成人慢性期看護学	1,040,000	委	文部科学省
孤立出産のリスク要因とポジティブデビアンسによる強化的要素の解明と支援策の構築	坂東 春美	公衆衛生看護学	1,560,000	委	文部科学省
がん性悪液質の増悪因子である舌萎縮の機序解明と抑制法の検討	大森 斉	分子病理学	1,560,000	委	文部科学省
身体活動による快情動(心地よさ)を基盤とした新しいがんリハビリテーションの開発	城戸 顕	リハビリテーション医学	910,000	委	文部科学省
深層筋解析を基盤とした脳血管障害後に対する歩行機能の再建研究	眞野 智生	脳神経内科学	1,300,000	委	文部科学省
DNA 損傷特異的人工エンドヌクレアーゼによる修復亢進の分子機構	杉浦 重樹	組換えDNA実験施設	1,560,000	委	文部科学省
CKD病態マーカーとしてのキラルアミノ酸プロファイルの有用性の検討	五十川 雅裕	臨床研究センター	2,210,000	委	文部科学省
舞台芸術家の筋骨格系障害の網羅的疫学研究および予防介入の基盤構築に向けた実装研究	小川 宗宏	寄附講座スポーツ医学講座	1,430,000	委	文部科学省
生成AIを用いSOAPに焦点化した電子カルテ用学習シミュレータの開発	城戸 楓	教育開発センター	1,560,000	委	文部科学省
産後うつ予防と母親役割を向上するためのITを活用したプログラムの構築	木村 奈緒美	母性看護学	2,080,000	委	文部科学省
カルシウム透過型AMPA受容体の活性化に基づく注視のメカニズム	齋藤 康彦	第一生理学	1,690,000	委	文部科学省
神経変性疾患の治療法開発に向けた亜鉛フィンガードメインの新たな機能の解明	五十棲 規嘉	未来基礎医学	1,430,000	委	文部科学省
胸膜肺実質線維弾性症の線維化を正確に捉える空間的深層学習モデルの構築	吉澤 明彦	病理診断学	1,820,000	委	文部科学省
加齢依存的オートファジー活性低下による肝臓がん機構の解明	井本 ひとみ(山本ひとみ)	オートファジー・抗老化研究センター	1,560,000	委	文部科学省
新規免疫チェックポイント分子HLA-Fを標的とした免疫療法実用化に向けた基礎研究	王寺 典子(下嶋典子)	免疫学	1,560,000	委	文部科学省
幼若期虐待モデルマウスにおけるストレス応答の変容とそのメカニズムの解明	山室 和彦	健康管理センター	1,820,000	委	文部科学省
運動器慢性疼痛に対するカテーテル治療における新規血管塞栓粒子の開発	佐藤 健司	中央放射線部	1,170,000	委	文部科学省
機能情報を取り入れた放射線治療計画評価法の確立	礪橋 文明	放射線腫瘍医学	910,000	委	文部科学省
包括的高度慢性下肢虚血患者に対する経皮的深部静脈動脈化術の確立	市橋 成夫	放射線診断・IVR学	1,950,000	委	文部科学省
造影CTの細胞外容積分画を用いた肝細胞癌のStem-like CD8陽性T細胞浸潤の予測法構築	南口 貴世介	放射線診断・IVR学	1,560,000	委	文部科学省
PF-ILDのフラクタル解析とCNN学習モデルを用いた画像診断研究	山田 彩	放射線診断・IVR学	1,430,000	委	文部科学省
血液凝固第Ⅷ因子制御に基づく血友病Aと血栓性疾患への新規治療薬開発の基礎研究	野上 恵嗣	小児科学	2,340,000	委	文部科学省
生体内病的環境下における血友病Aの病態解析と凝血学特性に基づく新規治療戦略の開発	矢田 弘史	総合周産期母子医療センター	2,340,000	委	文部科学省
脾臓内・外の抗FVIII応答制御による血友病Aインヒター産生消失への挑戦	小田 朗永	小児科学	1,820,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
運動療法とADAMTS13補充療法の併用による新たな肝硬変サルコペニアの治療戦略	浪崎 正	肝疾患相談センター	2,470,000	委	文部科学省
Enhanced Drug Repositioningを用いた肝硬変合併症に対する同時制御治療法の開発	吉治 仁志	消化器内科学	1,690,000	委	文部科学省
SGLT2を起点とした左室駆出率の保たれた心不全の病態解明と新規治療標的の検討	彦惣 俊吾	循環器内科学	1,170,000	委	文部科学省
NADPHオキシダーゼを介した活性酸素によるHFpEFの病態進展機序の解明	中田 康紀	循環器内科学	1,690,000	委	文部科学省
炎症性心筋疾患における心臓局所炎症細胞の機能解明	尾上 健児	循環器内科学	1,820,000	委	文部科学省
COPDのフレイル対策のための食事習慣と栄養摂取の役割－健康寿命延伸への取り組み－	藤田 幸男	栄養管理部	1,560,000	委	文部科学省
DIHSにおけるNK細胞に着目したHHV-6感染細胞の排除機構の解明	浅田 秀夫	皮膚科学	2,080,000	委	文部科学省
神経芽腫における免疫チェックポイント阻害剤耐性メカニズム解明と新規免疫治療の開発	洲尾 昌伍	消化器・総合外科学	1,170,000	委	文部科学省
GFATを標的とした高血糖起因性の膵癌化学療法抵抗性に対する新規治療戦略の開発	小原 有一朗	消化器・総合外科学	1,300,000	委	文部科学省
大腸陰窩の細胞動態における神経の果たす役割の解明	小山 文一	中央内視鏡部	1,820,000	委	文部科学省
肝細胞癌の新規治療法構築を目的とした悪性度予測microRNAリキッドバイオプシーの開発	阪田 武	消化器・総合外科学	1,560,000	委	文部科学省
小児に対応した運動誘発電位モニタリングのための麻酔方法の開発	松浦 秀記	集中治療部	1,170,000	委	文部科学省
ヒストンメチル化酵素SETDB2が関与する血管内皮細胞の細胞死メカニズム	園部 奨太	麻酔科学	1,430,000	委	文部科学省
人工赤血球(Hemoglobin Vesicle)による心肺停止後の脳蘇生	鶴田 啓亮	救急医学	1,950,000	委	文部科学省
間葉系幹細胞移植を用いた標的化筋肉再神経支配法の開発と神経腫治療への応用	河村 健二	玉井進記念四肢外傷センター	1,560,000	委	文部科学省
AIを利用した人工距骨の生体内動態解析	谷口 晃	整形外科	1,430,000	委	文部科学省
ヒドロキシクロロキンを用いた子宮内膜症の新規治療開発	山本 皇之祐	産婦人科学	1,690,000	委	文部科学省
子宮内膜症のエネルギー代謝特性に焦点を当てた非ホルモン治療の開発	小林 浩	産婦人科学	1,560,000	委	文部科学省
低分子量ヘパリンを術後早期から用いた肺血栓塞栓症に対する新規予防法の確立	川口 龍二	産婦人科学	1,430,000	委	文部科学省
免疫チェックポイント阻害薬による内分泌免疫関連有害事象のビッグデータ解析	紙谷 史夏	糖尿病・内分泌内科学	1,690,000	委	文部科学省
RA患者の最適な治療選択に向けた意思決定を支援する看護倫理教育プログラムの構築	松田 明子	理論基礎看護学	1,430,000	委	文部科学省
がん患者の治療に伴う有害事象出現が職種別就労継続に及ぼす影響	白田 梨奈	実践基礎看護学	1,300,000	委	文部科学省
海外渡航者が保菌する薬剤耐性菌の実態解明と感染コントロールを目指した包括的研究	堀内 沙央里	公衆衛生看護学	1,560,000	委	文部科学省
がん性心筋障害に対する食事介入の検討	羅 奕	分子病理学	1,560,000	委	文部科学省
慢性腎臓病におけるサルコペニアに対する栄養介入の検討	藤井 澄	分子病理学	1,430,000	委	文部科学省
治癒を加速させる創傷被覆材としての超分子ヘモグロビンハイドロゲルの開発	松平 崇	化学	1,430,000	委	文部科学省
新たな換気応答検査と睡眠検査を活用し神経筋疾患に対する呼吸管理の精度向上を目指す	山内 基雄	臨床病態医学	1,170,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
浮動性めまいの病態を評価するVRを用いた三次元的重力感受性検査法の確立	和田 佳郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	2,340,000	委	文部科学省
周術期の患者の安全性向上を目指した、口腔ケアを目的とした電子鼻(e-Nose)の開発	川西 秀明	麻酔科学	1,950,000	委	文部科学省
「マイクロ」オートファジーによるリソソーム膜修復を介した老化抑制機構の解明	中村 修平	生化学	4,290,000	委	文部科学省
ヒト初期発生過程の再構成実験系の開発	堀江 恭二	第二生理学	3,900,000	委	文部科学省
蓄積データからのエビデンス創出に資するグレブナー基底を用いた革新的統計手法の開発	西岡 祐一	公衆衛生学	3,120,000	委	文部科学省
肝臓に対するSulforaphaneの抗腫瘍効果の検討	佐藤 慎哉	寄附講座地域医療支援・教育学講座	650,000	委	文部科学省
順遺伝学で同定した新規遺伝子によるマウス・ヒトにおける神経分化制御機構の解明	吉田 純子	第二生理学	1,560,000	委	文部科学省
腹部大動脈瘤に対するステント内挿術後のMRI画像におけるRadiomics解析	岩越 真一	放射線診断・IVR学	130,000	委	文部科学省
NASHにおけるエンドキシンの腸管内吸着を介した肝発癌抑制治療の開発	辻 裕樹	消化器内科学	260,000	委	文部科学省
視線保持に関する神経積分器の神経ネットワーク基盤	杉村 岳俊	第一生理学	910,000	委	文部科学省
疾患関連HLA多型性の分子構造解析	中西 真理	分子動態創薬共同研究講座	1,430,000	委	文部科学省
神経難病におけるリピート配列に起因する細胞骨格とオートファジー異常の解明	塩田 智	脳神経内科学	1,430,000	委	文部科学省
タンパク質の制御機構からみたALS/FTDの病態解明	七浦 仁紀	脳神経内科学	1,430,000	委	文部科学省
自閉スペクトラム症における文化的自己観の神経基盤	高橋 誠人	精神医学	1,820,000	委	文部科学省
血栓症を呈した新規凝固第V因子異常症における抗凝固機能低下機序の解明	下西 成人	寄附講座血栓止血分子病態学講座	1,040,000	委	文部科学省
血友病A治療における高機能型第FVIII因子製剤の開発	中島 由翔	小児科学	1,170,000	委	文部科学省
Lenvatinibによる門脈圧亢進抑制効果の検討	小川 裕之	消化器内科学	780,000	委	文部科学省
アルコール性肝発癌の機序とNrf2活性化剤による多面的発癌抑制作用の検討	石田 光志	消化器内科学	520,000	委	文部科学省
近位尿細管におけるネプリライシンの存在意義と急性・慢性の腎障害に対する予防効果	西本 雅俊	腎臓内科学	1,560,000	委	文部科学省
包括的凝固線溶解析を基盤とする播種性血管内凝固とCOVID-19の治療戦略の構築	大西 智子	臨床研修センター	1,820,000	委	文部科学省
BRAF変異大腸癌におけるCD200発現の意義とCD200抗体による治療法の開発	岩佐 陽介	中央内視鏡部	1,170,000	委	文部科学省
糖化HMGB1の消化器癌における役割の検討	西口 由希子	分子病理学	1,690,000	委	文部科学省
生体吸収性ステントによる消化管縫合不全の新規治療法開発を目指した基礎的研究	尾原 伸作	消化器・総合外科学	1,040,000	委	文部科学省
胆膵癌における治療抵抗性獲得機序の解明とその克服による新規集学的治療法の開発	中川 顕志	消化器・総合外科学	1,950,000	委	文部科学省
侵害受容刺激モニターによる手術侵襲度評価の妥当性-バイオマーカーを用いた検討	田中 暢洋	中央手術部	650,000	委	文部科学省
TIGITノックアウトヒトNK細胞を用いた膠芽腫に対する新規治療法の開発	森本 堯之	脳神経外科学	1,300,000	委	文部科学省
肩鎖関節脱臼における肩鎖、烏口鎖骨靭帯の生体力学的研究	倉田 慎平	地域医療学講座	1,040,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				委	
人工肩関節置換術後における有限要素法を用いた上腕骨応力変化の検討	井上 和也	整形外科学	260,000	委	文部科学省
低リノール酸環境マウスとLPA1受容体ノックアウトマウスの下部尿路機能の変化	後藤 大輔	泌尿器科学	910,000	委	文部科学省
漿液性卵巣癌における卵管採前癌病変の発癌機序解明	杉本 澄美玲	産婦人科学	1,560,000	委	文部科学省
敗血症性ショックにおける2-AGによる末梢循環の新規分子機構の解明	勇井 克也	法医学	1,430,000	委	文部科学省
中鎖脂肪酸を用いたがん性サルコペニア治療の臨床応用の検討	後藤 桂	分子病理学	1,430,000	委	文部科学省
中間悪性度骨腫瘍に対する免疫チェックポイント分子発現を基盤とした新規治療戦略	塚本 真治	整形外科学	130,000	委	文部科学省
シングルセル解析による咽頭遠位型ミオパチーの分子病態解明の試み	江浦 信之	脳神経内科学	1,820,000	委	文部科学省
イメージング質量分析を用いたLEN先行TACEの薬剤分布評価と治療マーカーの探索	太地 良佑	総合画像診断センター	2,210,000	委	文部科学省
包括的血液凝固解析による小児特発性ネフローゼ症候群の血液凝固病態の解明	石川 智朗	小児科学	1,170,000	委	文部科学省
心臓MRIを用いた心筋エントロピーの有用性:左室駆出率が保たれた心不全の予後予測	妹尾 絢子	循環器内科学	650,000	委	文部科学省
癌幹細胞における免疫チェックポイント阻害剤耐性機構の解明	大田 正秀	がんゲノム・腫瘍内科学	1,300,000	委	文部科学省
脂肪由来間葉系幹細胞の多分化能を活用したCOPDの新規治療戦略	藤岡 伸啓	呼吸器内科学	1,430,000	委	文部科学省
HHV-6持続感染に着目したDIHSの病態解明および自己免疫疾患発症機序の解明	西村 友紀	皮膚科学	1,430,000	委	文部科学省
病原体を考慮した敗血症性脳症のマウスモデルの確立と病態解明	今北 菜津子	感染症内科学	1,300,000	委	文部科学省
呼吸器ウイルス感染症の発症および重症化におけるFOXO1シグナル伝達経路の機能解明	古川 龍太郎	免疫学	1,430,000	委	文部科学省
トリプルネガティブ乳癌におけるCD70発現の意義の解明と新規免疫療法の開発	横谷 倫世	消化器・総合外科学	1,300,000	委	文部科学省
E3ユビキチンリガーゼを介した胃癌進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	中出 裕士	消化器・総合外科学	1,430,000	委	文部科学省
入院前のオレキシン受容体拮抗薬の投与が入院後の睡眠と術後回復に及ぼす影響	位田 みつる	中央手術部	1,040,000	委	文部科学省
頸動脈プラークに対するスタチンはプラークを安定させるか-NIRSによる分布の変化	木次 将史	脳神経外科学	2,470,000	委	文部科学省
頰椎症性脊髄症の痺れの可視化	川崎 佐智子	寄附講座地域医療支援・教育学講座	520,000	委	文部科学省
関節リウマチに対する滑膜組織を用いた分子標的薬選択の最適化に関する研究	原 良太	リウマチセンター	2,210,000	委	文部科学省
腎移植におけるタクロリムス代謝・吸収と腸内細菌叢の関連解析	堀 俊太	泌尿器科学	1,430,000	委	文部科学省
ラットを用いた骨導超音波知覚の解明と耳鳴に対する治療の基礎研究	横田 尚弘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,300,000	委	文部科学省
多能性幹細胞から前庭有毛細胞の特異的分化誘導と培養前庭による細胞移植再生の試み	阪上 雅治	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,170,000	委	文部科学省
市民によるAED等の一次救命処置を早期に実施させるための口頭指導法の確立	浅井 英樹	救急医学	1,170,000	委	文部科学省
在宅医療における多職種協働によるケアの実態把握とアウトカム評価	次橋 幸男	公衆衛生学	2,080,000	委	文部科学省
住環境温湿度・皮膚温・脈拍変動の連続測定データを用いた高齢者熱中症予防法の開発	田井 義彬	疫学・予防医学	1,560,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				委	
レセプトビッグデータを用いた機能的副腎腫瘍における骨粗鬆症、脆弱骨折の病態解明	中島 拓紀	糖尿病・内分泌内科学	1,040,000	委	文部科学省
がん性サルコペニアにおける中鎖脂肪酸食とケトン体食の骨格筋保護作用の比較	宮川 良博	分子病理学	1,430,000	委	文部科学省
平衡障害の分類によるテーラーメイド前庭リハビリテーションの開発	塩崎 智之	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,040,000	委	文部科学省
新規発光刺激電極による半視野刺激視覚誘発電位モニタリング装置の開発	高谷 恒範	中央手術部	130,000	委	文部科学省
細胞老化に伴うリソソームの変容及び破綻機構の解明	志摩 喬之	生化学	2,340,000	委	文部科学省
生体内における卵母細胞の転写、翻訳活性の分子制御機構の解明	池田 宏輝	発生・再生医学	1,300,000	委	文部科学省
不明熱診療の質の改善のための診断アルゴリズムの作成とその実用性の検証	大野 史郎	総合医療学	1,300,000	委	文部科学省
IVIM解析を用いたステントグラフト内挿術後のエンドリークによる瘤拡大の予後予測	山谷 裕哉	中央放射線部	1,690,000	委	文部科学省
血友病A治療におけるインヒビター発生抑制を目指した分子細胞免疫学的解析	古川 晶子	小児科学	1,170,000	委	文部科学省
幹細胞技術を用いたin vitro肝類洞モデルの構築と肝線維化・炎症病態の解明	三谷 成二	血栓止血先端医学講座	1,820,000	委	文部科学省
ミトコンドリア機能を標的としたNASH関連サルコペニアの治療開発	岩井 聡始	消化器内科学	1,690,000	委	文部科学省
収縮能が保たれた心不全の機械学習分類とmicroRNAなどのbiomarkerの探索	経堂 篤史	循環器内科学	2,210,000	委	文部科学省
CMR parametric mappingを用いた急性大動脈解離の新規進展予測方法	橋本 行弘	集中治療部	2,340,000	委	文部科学省
ADAMTS13欠損患者の血栓症発症を修飾する血中プロテアーゼ活性及び腸内細菌叢	酒井 和哉	輸血部	2,730,000	委	文部科学省
肺癌治療戦略選別を目的としたエクソソーム腫瘍遺伝子複合リキッドバイオプシーの開発	中村 広太	消化器・総合外科学	2,470,000	委	文部科学省
切除不能肺癌に対する新規血中バイオマーカーを用いた予後予測遺伝子パネルの開発	長井 美奈子	消化器・総合外科学	1,690,000	委	文部科学省
脊髄損傷に対する骨格筋刺激装置併用ゲームを用いた新規リハビリテーション技術の開発	奥田 哲教	救急医学	1,040,000	委	文部科学省
ラット膀胱における尿再吸収機構と膀胱時計遺伝子の成長に伴う変化の解明	森澤 洋介	泌尿器科学	1,430,000	委	文部科学省
卵巣明細胞癌における特異なエネルギー代謝に関する研究	河原 直紀	産婦人科学	2,340,000	委	文部科学省
口腔癌に対するセツキシマブ療法におけるADCC活性増強の試み	中村 泰士	口腔外科学	1,690,000	委	文部科学省
味蕾および舌上皮の細胞増殖や維持・再生機構の解明	高橋 佑佳	口腔外科学	2,210,000	委	文部科学省
シンバイオティクスによるがん性サルコペニア抑制効果に関する研究	中嶋 千恵	口腔外科学	1,430,000	委	文部科学省
酸化的DNA損傷サイクロリンは色素性乾皮症患者の脳に蓄積するか？	西村 和樹	組換えDNA実験施設	1,430,000	委	文部科学省
脳神経外科手術における筋電図付き胃管を用いた下位脳神経モニタリングの開発	森崎 雄大	脳神経外科学	1,690,000	委	文部科学省
後根神経節の長鎖ノンコーディングRNAを標的とした糖尿病末梢神経障害の治療開発	小林 正樹	脳神経内科学	1,430,000	委	文部科学省
住血吸虫症の感染防御を目指した複数抗原型免疫の確立と横断的抗原探索	三須 政康	教育開発センター	1,430,000	委	文部科学省
切除可能肺癌予後予測を目的としたmiRNA-ctDNA複合リキッドバイオプシーの構築	中村 広太	消化器・総合外科学	1,300,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				委	補
地理情報システムを用いた院外心肺停止に対する病院前医療の有効な地域の地図の作成	木下 有紗	救急医学	1,040,000	委	文部科学省
マイクロRNAの標的化によるがん性サルコペニアの克服における基礎的研究	緒方 瑠衣子	分子病理学	1,430,000	委	文部科学省
血友病A治癒を目指した凝固VIII因子産生細胞の創出及び移植評価	小野寺 悠	血栓止血先端医学講座	1,430,000	委	文部科学省
リソファジーの新規評価系の開発及び分子機構の解明	志摩 喬之	生化学	1,430,000	委	文部科学省
卵巣オルガノイドを用いた卵巣予備能の形成機構の解明	高島 友弥	発生・再生医学	5,590,000	委	文部科学省
将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究(22IA1009)	今村 知明	公衆衛生学	8,976,000	補	厚生労働省
レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施設等のエビデンス構築等に資する研究(23AA2004)	今村 知明	公衆衛生学	21,250,000	補	厚生労働省
HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究(23HB1001)	野田 龍也	公衆衛生学	18,750,000	補	厚生労働省
科学的エビデンス等に基づき医療環境に応じた適切な輸血療法実施についての研究(23KC2009)	松本 雅則	血液内科学	7,310,000	補	厚生労働省
強度行動障害を有する知的・発達障害に関わる医療従事者向け研修プログラム開発に向けた研究(24GC1007)	岡田 俊	精神医学	9,359,000	補	厚生労働省
地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究(24IA1009)	今村 知明	公衆衛生学	24,640,000	補	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症拡大収束後の食品等事業者の新たな営業形態にも対応した食品防御の推進のための研究(24KA1006)	今村 知明	公衆衛生学	14,500,000	補	厚生労働省
慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究(22FA1011)	室 繁郎	呼吸器内科学	150,000	補	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究(22FG2001)	渡邊 恵介	ペインセンター	400,000	補	厚生労働省
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究(22HA1007)	笠原 敬	感染症内科学	450,000	補	厚生労働省
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究(22IA2004)	野田 龍也	公衆衛生学	200,000	補	厚生労働省
医療機器等におけるより高度な医療安全のためのバーコードの活用に関する研究(22KC2002)	池田 和之	薬剤部	0	補	厚生労働省
公的に標準化された医療情報を活用した感染症流行状況と一般診療状況を把握するための分析手法の開発および評価方法に関する研究(23IA1015)	明神 大也	公衆衛生学	1,200,000	補	厚生労働省
保健所における健康危機管理対応の推進等に関する研究(23LA2002)	佐伯 圭吾	疫学・予防医学	300,000	補	厚生労働省
ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究(23DA0901)	谷 有貴	NICU	0	補	厚生労働省
小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究—サーベイパーシブ向上を志向して(23EA1016)	木村 文則	産婦人科学	200,000	補	厚生労働省
予防・健康づくりのための住環境整備のための研究(23FA1009)	佐伯 圭吾	疫学・予防医学	600,000	補	厚生労働省
糖尿病の実態把握と発症予防・重症化予防のための研究(23FA1020)	野田 龍也	公衆衛生学	300,000	補	厚生労働省
希少難治性筋疾患に関する調査研究(23FC1014)	杉江 和馬	脳神経内科学	1,200,000	補	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究(23FC1017)	杉江 和馬	脳神経内科学	200,000	補	厚生労働省
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究(23FC1019)	佐伯 圭吾	疫学・予防医学	170,000	補	厚生労働省

計:245件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血液凝固異常症等に関する研究(23FC1022)	松本 雅則	血液内科学	1,200,000	補	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究(23FC1038)	浅田 秀夫	皮膚科学	1,000,000	補	厚生労働省
成長障害・性分化疾患を伴う内分泌症候群(プラダーウィリ症候群・ヌーナン症候群を含む)の診療水準向上を目指す調査研究(23FC1040)	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	300,000	補	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究(23FC1042)	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	350,000	補	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究(23FC1049)	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	300,000	補	厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究(23FC1056)	森本 千裕	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	70,000	補	厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究(23FC1056)	西 智	眼科学	50,000	補	厚生労働省
スモンに関する調査研究(23FC2001)	杉江 和馬	脳神経内科学	1,400,000	補	厚生労働省
肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者のQOL向上等に資する研究(23HC2001)	吉治 仁志	消化器内科学	1,500,000	補	厚生労働省
睡眠時間・睡眠休養感の確保に影響する就寝環境・生活習慣の客観的評価手法および適切な睡眠取得のための介入・環境整備法の開発(24FA1001)	佐伯 圭吾	疫学・予防医学	200,000	補	厚生労働省
早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究(24FC1013)	谷口 晃	整形外科	200,000	補	厚生労働省
難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究(24FC2004)	野田 龍也	公衆衛生学	800,000	補	厚生労働省
アレルギー疾患医療の質および経年推移の可視化と、アレルギー疾患対策基本法に基づく政策的介入効果の評価法の開発に関する研究(24FE1001)	野田 龍也	公衆衛生学	1,100,000	補	厚生労働省
訪問系サービスにおけるLIFEの活用に向けた評価指標の開発に資する研究(24GA1001)	城戸 顕	リハビリテーション医学	0	補	厚生労働省
訪問系サービスにおけるLIFEの活用に向けた評価指標の開発に資する研究(24GA1001)	赤羽 たけみ	消化器内科学	0	補	厚生労働省
訪問系サービスにおけるLIFEの活用に向けた評価指標の開発に資する研究(24GA1001)	西岡 祐一	公衆衛生学	4,000,000	補	厚生労働省
我が国における心血管疾患の回復期および維持期の診療の現状と課題(24FA1018)	彦惣 俊吾	循環器内科学	500,000	補	厚生労働省
季節性アレルギー性鼻炎の診療実態と経済的影響等の解明のための研究(24FE1002)	野田 龍也	公衆衛生学	1,100,000	補	厚生労働省
育成医療対象疾患の実態把握に関する研究(24GC1011)	野田 龍也	公衆衛生学	0	補	厚生労働省
看護職員の需給推計方法の妥当性の検証と推計のためのシナリオの検討(24CA2004)	今村 知明	公衆衛生学	0	補	厚生労働省
新興・再興感染症のリスク評価とバイオテロを含めた危機管理機能の実装のための研究(22HA2002)	野田 龍也	公衆衛生学	11,550,000	補	厚生労働省
特例臨時接種終了・定期接種化を見据えた国産新型コロナウイルスワクチンを含むコホート調査(24HA2009)	野田 龍也	公衆衛生学	10,000,000	補	厚生労働省
HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究(24HB2003)	野上 恵嗣	小児科学	0	補	厚生労働省
指定難病患者データベース・小児慢性特定疾病児童等データベースと各種公的データベースの連結手法および連結データ利活用法の検討	明神 大也	公衆衛生学	0	補	厚生労働省
肝硬変予後不良因子に対するvWF-ADAMTS13制御に基づいた病態解析と治療開発	吉治 仁志	消化器内科学	14,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
相分離破綻に起因する神経変性疾患に関する研究開発	森 英一朗	未来基礎医学	41,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計:45件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MET阻害剤に獲得耐性を示したMET遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するカボザンチニブの第2相試験	武田 真幸	がんゲノム・腫瘍内科学	65,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床研究用装置の開発と治療に関する研究	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	12,480,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
内臓痛の新規センシング機構の解明と治療法開発	田中 達英	解剖学第二	16,087,500	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究	浅田 秀夫	皮膚科学	3,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
疾患モデルオンチップ血管網によるスタージ・ウェーバー症候群の異常脳血管の再現と病態解明	坂野 公彦	生理学第二	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗ADAMTS13阻害抗体による後天性von Willebrand症候群の治療法の開発	松本 雅則	血液内科学	78,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
劇症型心筋炎の予後改善を目指した病態解明・データベース構築・AI診断ツールの研究開発	尾上 健児	循環器内科学	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腎虚の耳鳴りに対する牛車腎気丸の有効性に関する臨床研究のプロトコール作成のための研究	岡安 唯	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の医師主導治験	松本 雅則	血液内科学	123,282,900	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
リソソームストレス応答の破綻による神経・金疾患発症機序の解明と超早期バイオマーカー開発	中村 修平	生化学	26,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アンチトロンビン欠乏症に対する二重特異性DNAアプタマー薬の開発	坂田 飛鳥	血栓止血医薬生物学	26,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
スティーヴンス・ジョンソン症候群および中毒性表皮壊死症の新規重症度予後予測スコアの開発とガイドラインへの反映	浅田 秀夫	皮膚科学	650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生—肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	吉治 仁志	消化器内科学	3,250,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Personal Life Record (PLR)と専門職の知見を組み合わせたヘルスケアサービスの社会実装を促進する研究プロセスとデザインのフローの可視化	倉上 弘幸	臨床研究センター	856,440	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
細胞内膜動態によるプロテオスタシス制御の理解:健康長寿の実現に向けて	中村 修平	生化学	5,200,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
液-液相分離制御破綻に着目した筋萎縮性側索硬化症における運動ニューロン障害の分子病態解明に関する研究開発	五十棲 規嘉	未来基礎医学	1,950,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
体外受精卵(胚)の着床率向上を目的とした胚のタイムラプス画像機械学習に基づく良好胚および正常核型胚スクリーニング法の開発	前川 亮	産婦人科学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	伊藤 利洋	免疫学	2,340,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	吉治 仁志	消化器内科学	1,040,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
生細胞染色 CTS (Click-to-sense) 法を用いた乳がんの乳房温存手術の切除断端に対する術中迅速診断の確立	倉上 弘幸	臨床研究センタ	780,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血友病が抱える課題の解決を目指した新規治療法・診療体制の創出	野上 恵嗣	小児科学	16,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児から成人をシームレスに対象とした B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	石原 卓	小児科学	260,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児から成人に移行する慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	尾上 健児	循環器内科学	195,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	尾上 健児	循環器内科学	260,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
マルチオミクス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	尾上 健児	循環器内科学	650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
循環器疾患におけるシングルセルマルチオミクス層別化の実現	尾上 健児	循環器内科学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗ウイルス機能に優れたT細胞を誘導する人工T細胞抗原の開発	北畠 正大	免疫学	3,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
悪性脳腫瘍の高度治療抵抗性を克服する次世代ADCの開発	中澤 務	脳神経外科学	910,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
免疫細胞による精神病理の操作を目指して	牧之段 学	精神医学	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アスタチン-211と金マイクロスフィアを用いたIVR手法による原発性および転移性肝がんの局所内放射線治療の研究開発	西尾福 英之	緩和ケアセンター	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がんの低侵襲治療のアウトカム最大化を目指した埋込型医療機器の研究開発	穴井 洋	放射線・IVR診断学	0	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AI技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	牧之段 学	精神医学	5,200,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	榑原 崇文	小児科学	184,236	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現	岡田 俊	精神医学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小腸カプセル内視鏡診断支援プログラムに関する研究開発	堀内 久徳	血液内科学	650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
児童・思春期におけるオンラインメンタルヘルスケアシステム(KOKOKOROBO-Junior)の開発と社会実装	岡田 俊	精神医学	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
「仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練」・「SST(ソーシャルスキルトレーニング)データ収集とモデリング」	岡崎 康輔	精神医学講座	975,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
嗅皮質情報統合地図の構築とその応用	眞部 寛之	第一生理学	6,110,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
卵子の「質」構築を理解し、再建へと繋げる次世代卵子学の創出	長岡 創	発生・再生医学	9,360,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)	嶋 緑倫	医学部長	20,859,800	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Vessel-on-a-chipとゲノム編集がもたらすヒト脈管疾患の解明	坂野 公彦	生理学第二	3,900,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
体内精密情報デジタルツインシステム	鶴屋 和彦	腎臓内科	24,999,999	委	防衛省
リソソーム恒常性維持の分子機構と老化における役割の解明	中村 修平	生化学	4,000,000	補	公益財団法人上原記念生命科学財団
難治性筋疾患の空胞変性機序のダイナミクス理解とその制御	七浦 仁紀	脳神経内科学	1,500,000	補	公益財団法人中富健康科学振興財団
オートファジーの加齢変容による疾患発症の機序解明と治療応用	中村 修平	生化学	50,000,000	補	公益財団法人武田科学振興財団
オートファジーの加齢変容による発がん機構の解明	中村 修平	生化学	1,000,000	補	公益財団法人金原一郎記念医療振興財団
血友病A細胞治療に向けたヒトiPS細胞由来肝類洞内皮前駆細胞の純化技術開発	三谷 成二	血栓止血先端医学	1,000,000	補	一般社団法人日本血栓止血学会
遺伝性神経疾患の細胞内環境変化のダイナミクス理解とその制御	七浦 仁紀	脳神経内科学	5,000,000	補	公益財団法人中島記念国際交流財団
線虫の冬眠様現象制御におけるmTORC2経路の機能解析	堀川 誠	生化学	3,000,000	補	公益財団法人G-7奨学財団
ALS原因タンパク質の異常凝集を阻害する亜鉛フィンガードメインの作用メカニズムの解明	五十棲 規嘉	未来基礎医学	2,000,000	補	公益財団法人武田科学振興財団
リソソーム損傷応答におけるTFEBの活性化機構と生理的意義の解明	志摩 喬之	生化学	2,000,000	補	公益財団法人武田科学振興財団

計:38件

計:5件

計:1件

計:9件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

合計:343件

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文					
番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ishida A, Ida M, Kinomoto A, et al	周術期管理センター	Association of preoperative anxiety and depression with quality of recovery after caesarean delivery: a prospective	JA Clin Rep 2025 Mar	Original Article
2	Sakagami M, Kitahara T, Okayasu T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Decrease in atmospheric pressure could increase endolymphatic space volume in Meniere's disease.	Sci Rep 2025 Mar	Original Article
3	Nishimura N, Miyake M, Takamatsu N, et al	泌尿器科	Platinum-based chemotherapy rechallenge or enfortumab vedotin after maintenance avelumab or pembrolizumab for	Bladder Cancer 2025 Jan	Original Article
4	Miyake M, Iida K, Nishimura N, et al	泌尿器科	Serum metabolomic analysis identified serum biomarkers predicting tumour recurrence after Bacillus Calmette-Gu	Bladder Cancer 2025 Jan	Original Article
5	Ikehara M, Kashida N, Ishida R, et al	精神科	テカリン療法における Influence of self-esteem on health-related quality of life in children and adolescents with autism spectrum disorders.	PCN Rep 2025 Mar	Original Article
6	Masunaga T, Tsukamoto S, Honoki K, et al	整形外科	Predicting survival outcomes in dedifferentiated chondrosarcoma: a prognostic factor analysis from a National Registry.	SICOT J 2025 Mar	Original Article
7	Mano T, Kobayashi Y, Asada K, et al	リハビリテーション医学科	New functional electronic stimulation device for acute cerebrovascular disorder treatment: A preliminary prospective study.	Medicine (Baltimore) 2025 Mar	Original Article
8	Doi S, Yasuda S, Miyashita M, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Prognostic relevance of sarcopenia and tumor-infiltrating CD8(+) T cells in patients with hepatocellular carcinoma.	Ann Gastroenterol Surg 2025 Mar	Original Article
9	Tablante AJC, Kurokawa H, Ueno Y, et al	整形外科	Second metatarsophalangeal joint dislocation in hallux valgus: a radiographic study using a two-dimensional	BMC Musculoskelet Disord 2025 Feb	Original Article

10	Ishida A, Ida M, Naito Y, et al	周術期管理センター	Validation of the Japanese Version of Obstetric Quality of Recovery-11 Questionnaire and Its Association with Postpartum	J Clin Med 2025 Feb	Original Article
11	Kawaratani H, Namisaki T, Kondo Y, et al	消化器・代謝内科	Real-World Setting of Efficacy and Safety of 3 Years of Rifaximin Administration in Japanese Patients with Hepatic Encephalopathy: A	J Clin Med 2025 Feb	Original Article
12	Matsuda R, Tamamoto T, Inooka N, et al	脳神経外科	Systemic inflammation response index predicts overall survival in patients undergoing stereotactic	J Radiat Res 2025 Mar	Original Article
13	Miyake M, Nishimura N, Oda Y, et al	泌尿器科	Comparison of Post-Radical Cystectomy Renal Function and Ileal Conduit-Related Complications Between Extracorporeal and	Asian J Endosc Surg 2025 Jan	Original Article
14	Nishimori Y, Tanboon J, Oyama M, et al	脳神経内科	Anti-mitochondrial M2 antibody-positive myositis may be an independent subtype of autoimmune myositis.	J Neurol 2025 Feb	Original Article
15	Shimizu F, Uchida K, Takeuchi J, et al	脳神経外科	Outcome after Endovascular Treatment of Patients with Ruptured Cerebral Aneurysm over 90 Years of Age.	Neurol Med Chir (Tokyo) 2025 Mar	Original Article
16	Tsuruya K, Sugamori H, Tanaka Y, et al	腎臓内科	Real-world safety and effectiveness of roxadustat in patients with anemia of chronic kidney disease: interim results from a post-	Expert Opin Pharmacother 2025 Mar	Original Article
17	Otsuka S, Morimoto C, Nishio SY, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The Heterozygous p.A684V Variant in the WFS1 Gene Is a Mutational Hotspot Causing a Severe Hearing Loss Phenotype.	Genes (Basel) 2025 Jan	Original Article
18	Yabuno Y, Naito Y, Ida M, et al	麻酔科	WHO Disability Assessment Schedule 2.0: responsiveness in detecting long-term functional disability after surgery.	Br J Surg 2024 Dec	Original Article
19	Shimizu T, Miyake M, Ichikawa K, et al	泌尿器科	Intraoperative tumor capsule injury in patients with renal cell carcinoma receiving partial nephrectomy.	Int J Urol 2025 Feb	Original Article

20	Kamikawa K, Yamamuro K, Mizui R, et al	精神科	Reduced prefrontal hemodynamic responses measured using near-infrared spectroscopy in adults with autism spectrum disorder.	Front Psychiatry 2025 Jan	Original Article
21	Hori S, Tomizawa M, Inoue K, et al	泌尿器科	Screening and prognostic roles of renal volumetry and scintigraphy in the assessment of living kidney transplant donors, considering	BMC Nephrol 2025 Jan	Original Article
22	Murakami K, Horita S, Tsuyuki M, et al	口腔外科	Perioperative changes in anxiety and comfort in third molar extraction patients sedated with midazolam.	Oral Maxillofac Surg 2025 Jan	Original Article
23	Inoue K, Hori S, Tomizawa M, et al	泌尿器科	Evaluating Graft Loss Risk in Living-Donor Kidney Transplants with Multiple Renal Arteries.	Ann Transplant 2024 Dec	Original Article
24	Kimura T, Ota I, Uemura H, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Epidemiological trends in head and neck cancer in Nara Prefecture, Japan, from 2000-2021: The impact of the COVID-19	Auris Nasus Larynx 2025 Feb	Original Article
25	Kataoka H, Nanaura H, Sugie K	脳神経内科	Prognostic factors of subacute comprehensive encephalitis: a retrospective study.	Encephalitis 2025 Jan	Original Article
26	Shigematsu H, Yasuda A, Tangente R, et al	整形外科	Current trends in intraoperative neurophysiological monitoring among Asia-Pacific countries: an Asia-Pacific Spine Society	Asian Spine J 2024 Dec	Original Article
27	Maehana T, Kawahara N, Kamibayashi J, et al	産婦人科	A novel prognostic score of recurrence for endometrial cancer patients with staging surgery.	BMC Womens Health 2024 Dec	Original Article
28	Wanezaki Y, Kurokawa H, Ueno Y, et al	整形外科	Medial opening low tibial osteotomy shifts the load laterally not only at the ankle joint but also at the knee joint.	J Exp Orthop 2024 Oct	Original Article
29	Muro S, Seki M, Hurst JR, et al	呼吸器・アレルギー内科	Triple Therapy with Budesonide/Glycopyrronium/Formoterol Fumarate Dihydrate versus Dual Therapies for Patients with COPD	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis 2024 Dec	Original Article

30	Nishimura N, Miyake M, Onishi S, et al	泌尿器科	The Circadian Rhythm of Intracellular Protoporphyrin IX Accumulation Through Heme Synthesis Pathway in	Cancers (Basel) 2024 Dec	Original Article
31	Okamoto M, Inagaki Y, Okamura K, et al	リハビリテーション医学科	Identifying the best reference gene for RT-qPCR analyses of the three-dimensional osteogenic differentiation of	Bone Rep 2024 Dec	Original Article
32	Kubo M, Konko K, Kinoshita E, et al	血液内科	A novel automated chemiluminescent enzyme immunoassay for ADAMTS-13 activity enables accompanying measurements of the	J Thromb Haemost 2025 Mar	Original Article
33	Kataoka H, Isogawa M, Nanaura H, et al	脳神経内科	Effect of zonisamide on sleep and rapid eye movement sleep behavioral disorders in patients with Parkinson's disease: A randomized control	Clin Park Relat Disord 2024 Nov	Original Article
34	Oi A, Hayashi H, Uemura K, et al	麻酔科	Evaluation of post-tetanic motor evoked potential as an augmentation technique under partial neuromuscular blockade during	Clin Neurophysio 2025 Feb1	Original Article
35	Shimonishi N, Ogiwara K, Onishi K, et al	小児科	A clot waveform analysis-based system for differential diagnosis of prolonged activated partial thromboplastin time	Int J Hematol 2025 Feb	Original Article
36	Iwakoshi S, Yokoi Y, Yokota T, et al	放射線・核医学科	Physician-Modified Fenestrated Endovascular Aortic Repair for the Preservation of Hypogastric Artery Perfusion and	Ann Vasc Surg 2025 Feb	Original Article
37	Ohnishi H, Matsuoka K, Takahashi M, et al	精神科	Associations of demyelination in the right middle temporal gyrus and right praecuneus with visuospatial cognitive dysfunction in	Psychogeriatrics 2025 Jan	Original Article
38	Kamitani F, Nishioka Y, Koizumi M, et al	糖尿病・内分泌内科	Immune checkpoint inhibitor-related type 1 diabetes incidence, risk, and survival association.	J Diabetes Investig 2025 Feb	Original Article
39	Miyake M, Iemura Y, Oda Y, et al	泌尿器科	Bladder preservation with concurrent chemoradiotherapy for muscle-invasive bladder cancer: Retrospective comparison of three	Bladder (San Franc) 2024 Sep	Original Article

40	Tsubaki K, Kasahara K, Asada T, et al	麻酔科	Molecular epidemiology and clinical characteristics of Staphylococcus aureus bacteremia in Japanese adults.	J Infect Chemother 2025 Feb	Original Article
41	Kimura T, Kitahara T, Okayasu T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Prognosis of asymptomatic endolymphatic hydrops in healthy volunteers: A five-year cohort study.	Laryngoscope Investig Otolaryngol 2024 Dec	Original Article
42	Kotsugi M, Konishi K, Yokoyama S, et al	脳神経外科	Transarterial embolization for anterior cranial fossa dural arteriovenous fistula based on multi-modal three-dimensional imaging.	Surg Neurol Int 2024 Oct	Original Article
43	Kinugawa K, Mano T, Sugie K	脳神経内科	Changes in brain functional connectivity between on and off states and their relationship with cognitive impairment in	Sci Rep 2024 Nov	Original Article
44	Masunaga T, Tsukamoto S, Honoki K, et al	整形外科	Prognostic factors for mesenchymal chondrosarcoma.	SICOT J 2024 Nov	Original Article
45	Okada T, Sotodate T, Ogasawara-Shimizu M, et al	精神科	Psychiatric comorbidities of attention deficit/hyperactivity disorder in Japan: a nationwide population-based	Front Psychiatry 2024 Oct	Original Article
46	Maesaka F, Tomioka A, Matsushita C, Horikawa N, Fujimoto K	泌尿器科	Severe neutropenia caused by palliative radiation therapy in a case of metastatic hormone-sensitive prostate cancer.	IJU Case Rep 2024 Nov	Original Article
47	Kohara Y, Yasuda S, Nagai M, Nakamura K, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Prognostic significance of creatine kinase in resected pancreatic cancer.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2024 Dec	Original Article
48	Kosugi T, Eriguchi M, Yoshida H, et al	腎臓内科	Association of body indices with mortality in older population: Japan Specific Health Checkups (J-SHC) Study.	J Am Geriatr Soc 2025 Jan	Original Article
49	Miyamoto T, Hori S, Onishi S, et al	泌尿器科	Association of Mayo Adhesive Probability Score With Perioperative Outcomes and Histological Characteristics of	In Vivo 2024 Nov	Original Article

50	Miyake M, Tanaka N, Ohnishi K, et al	泌尿器科	Oral 5-aminolevulinic Acid for Patients With Localized Prostate Cancer Undergoing Low-dose-rate Brachytherapy:	In Vivo 2024 Nov	Original Article
51	Matsumoto M, Shimono A, Yokosawa J, et al	血液内科	Correlation between a 2-week change in platelet count and clinical outcomes after the initiation of ravulizumab treatment in adult	Thromb J 2024 Oct	Original Article
52	Kanaoka K, Nasu T, Kikuchi A, et al	循環器内科	Risk stratification by renal function and NYHA class in patients with hypotension initiated on sacubitril/valsartan:	Open Heart 2024 Oct	Original Article
53	Mui T, Shigematsu H, Ikejiri M, et al	整形外科	Perioperative complications in patients aged 65-85 years undergoing spinal surgery: a retrospective comparative study of	Asian Spine J 2024 Dec	Original Article
54	Kinoshita S, Terai T, Nagai M, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Clinical significance and therapeutic implication of CD200 in pancreatic cancer.	Pancreatology 2024 Dec	Original Article
55	Ikuno T, Ida M, Momota Y, Kawaguchi M	麻酔科	Effect of Oral Frailty on Postoperative Infection in Patients Undergoing Abdominal Visceral Surgery.	Oral Dis 2025 Feb	Original Article
56	Sato M, Ida M, Nakatani S, Kawaguchi M	麻酔科	A cross-sectional survey of prehabilitation among surgeons and anesthesiologists.	JA Clin Rep 2024 Oct	Original Article
57	Kataoka H, Saeki K, Tai Y, et al	脳神経内科	Changes in fatigue of Parkinson's disease during the recurrent COVID-19 pandemic: Findings from the longitudinal analysis of the	Parkinsonism Relat Disord 2024 Dec	Original Article
58	Nakai Y, Tanaka N, Asakawa I, Onishi K, et al	泌尿器科	Prostate-specific antigen (PSA) nadir and experience of PSA bounce after low-dose-rate brachytherapy for prostate cancer	Brachytherapy 2024 Nov	Original Article
59	Miyake M, Nishimura N, Oda Y, et al	泌尿器科	Longitudinal assessment of health-related quality of life in Japanese patients with advanced urothelial carcinoma receiving immune	Sci Rep 2024 Oct	Original Article

60	Ishii H, Kamiya H, Takahashi Y, et al	医師・患者関係学	Quality of Life in Japanese People with Type 2 Diabetes Switching from Multiple Daily Insulin Injections to Once-Daily iGlarLixi	Diabetes Ther 2024 Nov	Original Article
61	Nogi K, Ueda T, Nogi M, et al	循環器内科	Prognostic value of estimated plasma volume status at discharge in acute myocardial infarction.	ESC Heart Fail 2024 Oct	Original Article
62	Fujita Y, Yamauchi M, Hamada E, et al	呼吸器・アレルギー内科	Evaluation of continuous positive airway pressure adherence and its contributing factors.	Respir Med 2024 Nov	Original Article
63	Ommori R, Shinkuma S, Asada H	皮膚科	Staphylococcus epidermidis augments human α -defensin-3 synthesis through the transforming growth factor α -epidermal growth	J Dermatol Sci 2024 Oct	Original Article
64	Tanaka N, Izumi K, Nakai Y, Shima T, et al	泌尿器科	Dose modification in enzalutamide and abiraterone plus prednisolone for castration-resistant prostate cancer: A subanalysis from the	Prostate 2025 Jan	Original Article
65	Yasuda S, Matsuo Y, Doi S, Sakata T, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Preoperative predictors of very early recurrence in patients with hepatocellular carcinoma beyond the Milan criteria.	Langenbecks Arch Surg 2024 Sep	Original Article
66	Tamaki H, Eriguchi M, Nishimoto M, et al	腎臓内科	Association of pulse pressure with incident end-stage kidney disease according to histopathological kidney findings in	Hypertens Res 2024 Nov	Original Article
67	Okada S, Nishioka Y, Kanaoka K, et al	糖尿病・内分泌科内科	Annual variation of estimated glomerular filtration rate in health check-ups associated with end-stage kidney disease.	Sci Rep 2024 Sep	Original Article
68	Kawai Y, Yamamoto K, Miyazaki K, et al	救急科	Effects of Post-Hospital Arrival Factors on Out-of-Hospital Cardiac Arrest Outcomes During the COVID-19 Pandemic.	Crit Care Explor 2024 Sep	Original Article
69	Yamada S, Sakai K, Kubo M, et al	血液内科	Excessive cleavage of von Willebrand factor multimers by ADAMTS13 may predict the progression of transplant-associated	Res Pract Thromb Haemost 2024 Jul	Original Article

70	Sasaki S, Tsukamoto S, Ishida Y, Kobayashi Y, et al	リハビリテーション医学	The Karnofsky Performance Status at Discharge Is a Prognostic Indicator of Life Expectancy in Patients With Glioblastoma.	Cureus 2024 Aug	Original Article
71	Hori S, Tomizawa M, Inoue K, et al	泌尿器科	Trends in Patient Characteristics on the Japanese Waiting Lists for Deceased-Donor Kidney Transplantation. Are There no Eligibility	Transplant Proc 2024 Oct	Original Article
72	Onishi K, Nakai Y, Maesaka F, et al	泌尿器科	Duration of ホア-1 adrenergic antagonist administration after low-dose-rate brachytherapy for prostate cancer.	Jpn J Clin Oncol 2024 Dec	Original Article
73	Kawaguchi T, Takeda M, Yoshikawa D, et al	胸部・心臓血管外科	Pulmonary metastases from pancreatic cancer have different clinico-radiological features compared with those from	Jpn J Clin Oncol 2024 Dec	Original Article
74	Hamada E, Yamauchi M, Fujita Y, et al	呼吸器・アレルギー内科	Multidimensional prediction of continuous positive airway pressure adherence.	Sleep Med 2024 Oct	Original Article
75	Kataoka H, Sugie K	脳神経内科	Early-morning OFF in Parkinson's disease: A systematic literature review and current therapeutics.	Clin Neurol Neurosurg 2024 Oct	Original Article
76	Tsujinaka H, Imoto S, Ueda T, Wakuta M, et al	眼科	Incidence and prognosis of taxane-induced macular edema: a retrospective study from the Japan Clinical REtina Study	Sci Rep 2024 Aug	Original Article
77	Isogawa M, Makino H, Son C, et al	臨床研究センター	Comparison of canagliflozin and teneligliptin on energy intake and body weight in Japanese patients with Type 2 diabetes:	BMC Endocr Disord 2024 Aug	Original Article
78	Terai T, Nishiwada S, Nagai M, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Clinical impact of carbonic anhydrase 9 expression on neoadjuvant chemoradiotherapy in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Pancreatology 2024 Sep	Original Article
79	Minami N, Tsukamoto S, Shimizu T, et al	整形外科	Coverage of lateral soft tissue defects with sartorius muscle flap after distal femoral replacement for malignant bone tumors.	SICOT J 2024 Aug	Original Article

80	Nakajima Y, Osuna M, Mizumachi K, et al	小児科	Activated protein C resistance in the copresence of emicizumab and activated prothrombin complex concentrates.	Res Pract Thromb Haemost 2024 May	Original Article
81	Kohara Y, Yasuda S, Nagai M, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Critical Role of Preoperative Hyperglycemia in Association with GFAT-1 Expression in Resected Pancreatic Cancer.	Ann Surg Oncol 2024 Nov	Original Article
82	Nishimura N, Miyake M, Onishi S, et al	泌尿器科	Photodynamic Therapeutic Effect during 5-Aminolevulinic Acid-Mediated Photodynamic Diagnosis-Assisted	Adv Urol 2024 Jul	Original Article
83	Muro S, Kawayama T, Sugiura H, et al	呼吸器・アレルギー内科	Benefits of budesonide/glycopyrronium/formoterol fumarate dihydrate on lung function and exacerbations of COPD: a post-hoc	Respir Res 2024 Aug	Original Article
84	Uchiyama C, Terai T, Nagai M, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Feasibility and efficacy of cell-free and concentrate ascites reinfusion therapy (CART) for advanced pancreatic cancer patients with	Pancreatology 2024 Sep	Original Article
85	Takatani T, Matsuda R, Hayashi H, et al	麻酔科	Intraoperative Neuromonitoring for the Lower-Extremity Region Using Motor-Evoked Potential With Direct Cortical Stimulation in Brain	J Clin Neurophysiol 2025 Mar	Original Article
86	Takagi T, Koyama F, Kuge H, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Decreased Positive Fecal Occult Blood Tests and Delayed Medical Presentation for Colorectal Cancer during the Initial COVID-19	J Anus Rectum Colon 2024 Jul	Original Article
87	Matsuda R, Maeoka R, Morimoto T, et al	脳神経外科	Effect of Intraoperative Ventricular Opening on Recurrence Patterns Following Bis-Chloroethyl-Nitrosourea Wafer	J Korean Neurosurg Soc 2025 Jan	Original Article
88	Suzuka T, Tanaka N, Kadoya Y, et al	麻酔科	Comparison of Analgesic Method in Laparoscopic Gastrectomy Using External Oblique Intercostal Block Versus Wound	J Clin Med 2024 Jul	Original Article
89	Sajiki-Ito M, Tsukamoto S, Bai D, et al	リハビリテーション医学科	Postoperative Rehabilitation Program for Increasing Muscle Mass in Patients With Hip Fracture: A Retrospective Study.	Cureus 2024 Jun	Original Article

90	Okumura K, Takeda T, Komori T, et al	精神科	Adverse childhood experiences exacerbate peripheral symptoms of autism spectrum disorder in adults.	Psychiatry Clin Neurosci 2024 Oct	Original Article
91	Hori S, Tomizawa M, Inoue K, et al	泌尿器科	Prognostic role of nutritional and inflammatory indicators for patient survival and death with functional graft in living kidney	Clin Exp Nephrol 2024 Nov	Original Article
92	Kawai Y, Nakayama A, Fukushima H	救急科	Identification of sepsis-causing bacteria from whole blood without culture using primers with no cross-reactivity to human DNA.	J Microbiol Methods 2024 Aug	Original Article
93	Hori S, Tomizawa M, Inoue K, et al	泌尿器科	Follow-up After Donor Nephrectomy in Living Kidney Donors: How to Manage Living Kidney Donors Postoperatively.	In Vivo 2024 Jul	Original Article
94	Tanaka N, Kadoya Y, Suzuka T, et al	麻酔科	Effect of nociception level-directed analgesic management on opioid usage in robot-assisted laparoscopic radical	J Anesth 2024 Oct	Original Article
95	Kunichika H, Minamiguchi K, Tachiiri T, et al	放射線・核医学科	Prediction of Efficacy for Atezolizumab/Bevacizumab in Unresectable Hepatocellular Carcinoma with	Cancers (Basel) 2024 Jun	Original Article
96	Nakazawa T, Morimoto T, Maeoka R, et al	脳神経消化器外科・小児外科・乳腺外科	Characterization of HIF-1 α Knockout Primary Human Natural Killer Cells Including Populations in Allogeneic	Int J Mol Sci 2024 May	Original Article
97	Miyake M, Nishimura N, Oda Y, et al	泌尿器科	Difference of oncological efficacy between two immune checkpoint inhibitors following first-line platinum-based chemotherapy in	Int J Clin Oncol 2024 Sep	Original Article
98	Tamaki H, Eriguchi M, Yoshida H, et al	腎臓内科	Pulse pressure modifies the association between diastolic blood pressure and decrease in kidney function: the Japan	Clin Kidney J 2024 Jun	Original Article
99	Iwai S, Akahane T, Takaya H, et al	消化器・代謝内科	Ratio of von Willebrand factor to ADAMTS13 is a useful predictor of esophagogastric varices progression after sustained	Hepatol Res 2024 Dec	Original Article

100	Tsukamoto S, Mavrogenis AF, Masunaga T, et al	整形外科	Response rate specific to bone metastasis of various cancers for immune checkpoint inhibitors: a systematic review.	Eur J Orthop Surg Traumatol 2024 Aug	Original Article
101	Nishimura N, Miyake M, Miyamoto T, Shimizu T, et al	泌尿器科	Routine Surveillance of Upper Urinary Tract Imaging for Diagnosing Upper Urinary Tract Urothelial Cancer Recurrence in	Adv Urol 2024 May	Original Article
102	Okamoto T, Kotsugi M, Sasaki H, et al	脳神経外科	Passive Approximator Vascular Closure Device Use in Patients with Shallow Femoral Artery Depth Increases Puncture-site	World Neurosurg 2024 Aug	Original Article
103	Maehana T, Kawaguchi R, Nishikawa K, et al	産婦人科	Investigating the efficacy of tissue factor pathway inhibitor 2 as a promising prognostic marker for ovarian cancer.	Oncol Lett 2024 Jul	Original Article
104	Ishii H, Maeda Y, Sato M, et al	医師・患者関係学講座	Therapy-Related Satisfaction and Quality of Life for Japanese People with Diabetes Using Rapid-Acting Insulin Analogs: A Web-	Diabetes Ther 2024 Jul	Original Article
105	Kataoka H, Kinugawa K, Sugata M, et al	脳神経内科	Reduction in presynaptic dopamine transporter may be associated with future problematic delusion.	Clin Neurol Neurosurg 2024 Jul	Original Article
106	Nakai Y, Tanaka N, Asakawa I, Ohnishi K, et al	泌尿器科	Efficacy of a hydrogel spacer for improving quality of life in patients with prostate cancer undergoing low-dose-rate	Prostate 2024 Sep	Original Article
107	Tachiiri T, Minamiguchi K, Taiji R, Sato T, et al	放射線科	Effects of Short-Term Lenvatinib Administration Prior to Transarterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma.	Cancers (Basel) 2024 Apr	Original Article
108	Tsukamoto S, Righi A, Mavrogenis AF, Masunaga T, et al	整形外科	Effect of adjuvant chemotherapy on localized dedifferentiated low-grade osteosarcoma: a systematic review.	Musculoskelet Surg 2024 Sep	Original Article
109	Mano T, Iguchi N, Iwasa N, Yamada N, et al	脳神経内科	Compound muscle action potential of whole-forearm flexors: A clinical biomarker for inclusion body myositis.	Clin Neurophysiol Pract 2024 Apr	Original Article

110	Nakase K, Nishimura F, Yokoyama S, et al	脳神経外科	Management Approaches and Patient Outcomes for Giant Pituitary Neuroendocrine Tumors Classified as Knosp Grade 3 and	Cureus 2024 Apr	Original Article
111	Yamakawa N, Okura M, Hasegawa T, et al	臨床研究センター	Prognostic value of a mandibular canal staging system for primary lesions in patients with lower gingival squamous cell carcinoma: a	Int J Clin Oncol 2024 Aug	Original Article
112	Takeuchi J, Ozaki I, Hata K, Nozawa M, et al	臨床研究センター	Mumps vaccination and immune status among Japanese university students: A multicenter cross-sectional study.	J Public Health Res 2024 Apr	Original Article
113	Gotoh D, Torimoto K, Takamatsu N, et al	泌尿器科	Intravesical Injection of OnabotulinumtoxinA (Botulinum Toxin Type A) in Japanese Patients With Refractory	In Vivo 2024 May	Original Article
114	Miyake M, Nishimura N, Nakahama T, et al	泌尿器科	Differences in oncological benefits from second transurethral resection between white-light initial surgery and	Int J Urol 2024 Aug	Original Article
115	Nishimura Y, Ogawa M, Okamura K, et al	整形外科	Validation of compositional MRI from a histological standpoint: Advantages of three-dimensional T1マ・mapping for	Magn Reson Imaging 2024 Jul	Original Article
116	Mui T, Shigematsu H, Takatani T, et al	整形外科	Which patients do we need to consider augmentation of muscle active potentials regarding transcranial electrical stimulation motor-	Spine J 2024 Sep	Original Article
117	Mui T, Shigematsu H, Takatani T, et al	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Association of perioperative oral swallowing function with post-esophagectomy outcomes and nutritional statuses in	Dis Esophagus 2024 Jul	Original Article
118	Matsuda R, Maeoka R, Morimoto T, et al	脳神経外科	Pre-treatment systemic inflammation response index and systemic immune inflammation in patients with primary central nerve system	J Neurooncol 2024 Jul	Original Article
119	Matsuda R, Maeoka R, Morimoto T, et al	脳神経外科	Preoperative Blood Counts Predict Overall Survival in Patients Undergoing Surgical Removal of Brain Metastasis.	World Neurosurg 2024 Jun	Original Article

120	Torimoto K, Gotoh D, Nakai Y, et al	泌尿器科	Electroencephalography-based investigation of the effects of oral desmopressin on improving slow-wave sleep time in	NeuroUrol Urodyn 2024 Sep	Original Article
121	Kinugasa Y, Ida M, Kawaguchi M	麻酔科	Fried Frailty Phenotype Questionnaire scores and postoperative patient-reported outcomes of patients undergoing major	Geriatr Gerontol Int 2024 May	Original Article
122	Shimizu T, Miyake M, Iida K, et al	泌尿器科	Molecular mechanism of formation and destruction of a pseudo-annular structure in clear cell renal cell carcinoma.	Oncol Lett 2024 May	Original Article
123	Isohashi F, Yoshida K, Murakami N, et al	放射線治療科	Reirradiation for recurrent gynecologic cancer using high-dose-rate brachytherapy in Japan: A multicenter survey on practice	Radiother Oncol 2024 Jun	Original Article
124	Kanaoka K, Onoue K, Terasaki S, et al	循環器内科	Changes in Cardiac Function Following Fulminant Myocarditis.	Circ Heart Fail 2024 Apr	Original Article
125	Okamoto K, Fukushima H, Kawaguchi M, et al	腎臓内科	Low-Dose Continuous Kidney Replacement Therapy and Mortality in Critically Ill Patients With Acute Kidney Injury: A	Am J Kidney Dis 2024 Aug	Original Article
126	Inoue K, Hori S, Tomizawa M, et al	泌尿器科	Risks of infection and severity of coronavirus disease 2019 in kidney transplant recipients: A single-center cohort study.	Transpl Immuno 2024 Jun	Original Article
127	Hirai S, Ida M, Kawaguchi M	周術期管理センター	Comparison of prophylaxis strategy for postoperative nausea and vomiting and its incidence before and after the implementation of 5-	J Anesth 2024 Jun	Original Article
128	Saito K, Sakai K, Kubo M, et al	輸血部	Persistent ADAMTS13 inhibitor delays recovery of ADAMTS13 activity in caplacizumab-treated Japanese patients with iTTP.	Blood Adv 2024 May	Original Article
129	Kotani T, Ida M, Naito Y, Kawaguchi M	麻酔科	Comparison of remimazolam-based and propofol-based total intravenous anesthesia on hemodynamics during anesthesia induction	J Anesth 2024 Jun	Original Article

130	Kawamura K, Okada H, Maegawa N, et al	整形外科	Anatomical quantitative evaluation of popliteal artery visualization during medial approach in supine position.	Eur J Orthop Surg Traumatol 2024 Apr	Original Article
131	Morizawa Y, Aoki K, Fukui S, et al	泌尿器科	Long-term follow-up of congenital hydronephrosis in a single-center study.	Int J Urol 2024 May	Original Article
132	Tsuruya K, Yoshida H, Yamada S, et al	腎臓内科	More rapid progression of brain atrophy in patients on peritoneal dialysis compared with hemodialysis: The VCOHP Study.	Hypertens Res 2024 Apr	Original Article
133	Kim TK, Kim JW, Kim SK, et al	小児科	Surgical treatment of interhemispheric arachnoid cysts.	Childs Nerv Syst 2024 Apr	Original Article
134	Fukata F, Eriguchi M, Tamaki H, et al	腎臓内科	Differential impact of glomerular and tubule-interstitial histological changes on kidney outcome between non-proteinuric and	Clin Exp Nephrol 2024 Apr	Original Article
135	Hori S, Tomizawa M, Inoue K, et al	泌尿器科	Impact of nutrition and inflammation indicators on peritoneal dialysis initiation and management.	Clin Exp Nephrol 2024 Apr	Original Article
136	Kawasaki S, Shigematsu H, Tanaka M, et al	整形外科	Utility of desflurane as an anesthetic in motor-evoked potentials in spine surgery and the facilitating effect in tetanic stimulation of	J Clin Monit Comput 2024 Jun	Original Article
137	Omae T, Ishikawa T, Ogiwara K, Nogami K	小児科	Pediatric Mesangial Proliferative Glomerulonephritis Has Increased the Platelet Thrombus Formation Potentials under High-Shear	Nephron 2024 Jun	Original Article
138	Hirai S, Ida M, Naito Y, Kawaguchi M	周術期管理センター	Comparison between the effects of epidural and intravenous patient-controlled analgesia on postoperative disability-free	Eur J Pain 2024 Sep	Original Article
139	Nishiofuku H, Mori M, Yokomichi N, et al	放射線・核医学科	Successful Management of Terminal Delirium With Transdermal Blonanserin Patch in a Terminally Ill Cancer Patient.	J Palliat Med 2024 Aug	Original Article

140	Mui T, Shigematsu H, Ikejiri M, et al	整形外科	Reliability of the Risser+ grade for assessment of bone maturity in pediatric scoliosis cases: Investigation using standing and supine	J Orthop Sci 2025 Jan	Original Article
141	Dahal R, Tamura K, Pan DS, et al	脳神経外科	Effect of Sevoflurane Anesthesia on Intraoperative Spikes, High-Frequency Oscillations, and Phase-Amplitude Coupling in MRI-	J Clin Neurophysiol 2024 Nov	Original Article
142	Kanaoka K, Iwanaga Y, Sumita Y, et al	循環器内科	Management and Outcomes of Acute Heart Failure Hospitalizations in Japan.	Circ J 2024 Jul	Original Article

計142件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成、責務、審査とその判定、審査書類の準備と手続き、事務局業務について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 目的、適用範囲、利益相反管理委員会、自己申告書の提出、委員会における審査等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年7回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年12回
・ 研修の主な内容 臨床研究法その他適用法令等に基づき行われる臨床研究の実施の際に必要な研究倫理的知識等の習得（適用法令の概要、被験者保護、統計解析、知財等）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科が総合的な臨床力を重視するとともにさまざまな専門医養成コースを準備しており、複数科連携プログラムも稼働している。このため各人がそれぞれのニーズに合わせてキャリアデザインを組むことが可能となっている。
内科各科の連携は密接で内科合同カンファレンスを定期的を開催するとともに、総合内科専門医養成コースを設けている。
さらに、附属病院として、緩和ケアを含むがん薬物療法および放射線治療に関する知識・技術を修得した総合的ながん専門医を養成するためのプログラムを策定し、「がん薬物療法専門医」養成コースも設けている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	45	人
-------------	----	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
彦惣 俊吾	循環器内科	教授	29年	
室 繁郎	呼吸器・アレルギー	教授	36年	
吉治 仁志	消化器・代謝内科	教授	38年	
笠原 敬	感染制御内科	教授	26年	
杉江 和馬	脳神経内科	教授	30年	
庄 雅之	消化器外科・小児外科・乳腺外科	教授	34年	
中川 一郎	脳神経外科	教授	28年	
細野 光治	心臓血管外科	教授	30年	
谷口 晃	整形外科	准教授	27年	リウマチ科も兼ねる
山川 延宏	歯科口腔外科	准教授	23年	
木村 文則	産婦人科	教授	28年	
加瀬 諭	眼科	教授	26年	
野上 恵嗣	小児科	教授	34年	
岡田 俊	精神科	教授	28年	
新熊 悟	皮膚科	准教授	21年	
藤本 清秀	泌尿器科	教授	38年	
北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	33年	内分泌外科も兼ねる
田中 利洋	放射線・核医学科	教授	29年	
磯橋 文明	放射線治療科	教授	25年	
川口 昌彦	麻酔科	教授	37年	
福島 英賢	救急科	教授	29年	

吉本 清巳	総合診療科	教授	23年	リウマチ科も兼ねる
桑原 理充	形成外科	病院教授	29年	
城戸 顕	リハビリテーション科	教授	34年	
吉澤 明彦	病理診断科	教授	28年	
濱路 政嗣	呼吸器外科	病院教授	24年	
鶴屋 和彦	腎臓内科	教授	34年	
高橋 裕	糖尿病・内分泌内科	教授	27年	
武田 真幸	腫瘍内科	教授	24年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	吉川公彦	
管理担当者氏名	経営企画課長 高井 克実 病院管理課長 村井 裕司 医療サービス課長 中村 泰英 医療相談室長兼患者・家族支援室室長 瀬川 直樹	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課	
		各科診療日誌	医療情報部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療情報部	
		看護記録	医療情報部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	医療情報部	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	
			<p>・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。</p> <p>・2007年に電子カルテを導入しており、それ以前の紙カルテは、病歴保管庫で保管。なお最終来院日から10年未受診の患者の紙カルテは、診療科に確認の上、順次廃棄を行っている。また、紙媒体で生成される各種検査資料及び同意書等については、原則、電子印章付きのスキナで取り込み、電子データを原本として電子カルテに保存している。</p> <p>・診療録の院外への持ち出しについては診療録取扱内規により禁止されている。</p>	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	各診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
		高度の医療の研修の実績	各診療科	
		閲覧実績	実績なし	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療情報部 地域連携・入退院支援センター	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部 経営企画課
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全管理センター
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理センター
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全管理センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全管理センター	
			各種データ（又は帳冊）	
			各種データ（又は帳冊）	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	に掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療技術センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療の質・安全管理センター 医療技術センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療の質・安全管理センター 医療技術センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質・安全管理センター 医療技術センター	

各種データ（又は帳冊）

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質・安全管理センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全管理センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課 医療の質・安全管理センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課 医療の質・安全管理センター
		監査委員会の設置状況	病院管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全管理センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全管理センター 病院管理課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質・安全管理センター 人事課
		職員研修の実施状況	医療の質・安全管理センター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全管理センター 医療医術センター 薬剤部
管理者が有する権限に関する状況	人事課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	経営企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務広報課		
		各種データ（又は帳冊）	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉川 公彦	
閲覧担当者氏名	経営企画課長 高井 克実、医療サービス課長 中村 泰英、病院管理課長 村井 裕司、医療相談室長 瀬川 直樹	
閲覧の求めに応じる場所	・各執務室	
閲覧の手続の概要		
閲覧の手続の概要		
「公立大学法人奈良県立医科大学における個人情報の取扱いに関する規程」を準用した開示(閲覧)手続による。		
(診療録等個人情報を含む場合)		
1. 開示(閲覧)請求 ↓ 2. 法人内部での決裁 ↓ 3. 決定 ↓ 4. 開示(閲覧)		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容： 医療事故の予防・再発防止対策並びに発生時の適切な対応など、本院における医療安全管理体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることを目的とする。</p> <p>主な内容は、 ①医療安全管理体制の構築（医療安全管理委員会及び医療安全推進室の設置、医療安全推進活動、患者相談窓口の設置等） ②院内報告制度の構築 ③職員に対する安全教育・研修 ④医療事故発生時の対応方法の確立 ⑤医療事故の公表等</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（☑・無） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容：</p> <p>医療の質・安全管理センターの活動報告及び審議等の承認 主な内容は、 ①医療安全管理に関する重要案件の審議 ②医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること ③医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること ④医療事故調査委員会の審議結果を受けた再発防止に向けての検討に関すること ⑤ 管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直し等</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	e-ラーニングのみ
<p>・ 研修の内容（すべて）：5テーマのうち2テーマ以上受講で受講完了</p> <p>・ 医療安全の考え方～あなたの大切な人をどこで治療しますか～ ・ 当院のインシデントの傾向～インシデント集計報告～ ・ 多職員間コミュニケーションのピットフォール～心理的安全性を考える～ ・ 医療紛争に備えるⅢ～裁判に発展しないために～ ・ 医療におけるチームコミュニケーション</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①事故報告 ・ 院内報告制度の構築、医療事故発生時の対応方法を確立している。 ・ 重大なインシデントが発生した時はインシデントホットライン(24時間対応)で医療の質・安全管理センターに連絡が入り医療の質・安全管理センターは病院幹部と情報共有を図る。 ・ 発生所属はその後、電子カルテ内のインシデント報告システムにより背景や経緯等詳細を報告する。</p>	

②その他

・院内全部署あてに、医療機能評価機構が発行する「医療安全情報」を配布するとともに、医療の質・安全管理センターで医療安全管理に関する重要事項について「医療安全ニュース」を作成して配信する。

・インシデント・アクシデントのうち原因の究明について、複数の所属が連携して取り組む必要があるものについては、分析・対策検討会議で関係所属と医療の質・安全管理センターが連携して原因を分析、対策を立案、実行、検証、見直しを行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的考え方、②感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項、③院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針、④感染症の発生状況の報告に関する基本方針、⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針、⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針、⑦その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針等その他感染対策を推進するために必要な基本方針を記載している</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 病院長、感染管理室長（感染症内科教授）、看護部長、薬剤部長、中央臨床検査部長、病院経営部長、ICD、ICNなど職種横断的に構成しており、委員は21名。毎月1回開催している。また、耐性菌の検出状況や抗菌薬適正使用に係る活動内容及び使用量の状況報告、状況、針刺し事故事例、医療関連感染事例や、従業員に対する研修の実施状況などを定例報告として提示している。 本委員会では医療関連感染事例の対応や本指針、感染対策に関するマニュアル等の制定・改廃の承認について等の院内感染対策にかかる事項について、審議および意思決定を行っている。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： 職員に感染対策として周知・徹底したい知識や情報等をテーマとして、全職員対象に研修を実施している。新型コロナウイルス感染防止の観点からE-learningの受講を推奨しつつ、院外講師を招聘し集合研修を2回行った。開催内容は1回目「COVID-19パンデミック経た今 考えたい感染対策推進の鍵」、2回目「抗菌薬の適正使用」である。Office365のSharePointを活用し、感染対策関連のコンテンツは6種類（集合研修の内容を含む）、抗菌薬の適正使用に関する内容は1種類（集合研修の内容を含む）、合計7種類のコンテンツをアップロードした。受講対象となる職員にはE-learningの受講を推奨しているが、インターネット環境が整っていない職員を対象に救済措置として動画視聴研修を（集合研修にて）開催することで全職員2回以上受講率100%を継続している。 未受講者をなくす取り組みとして、所属長、ICT委員宛とし、定期的に未受講者一覧を配布することで年間2回以上受講するよう啓発を図っている。 またこれとは別に、新規採用および中途採用職員には入職時に人事課と協働で研修会（動画視聴またはE-learningにて対応）を開催し、参加できない職員にはOffice365のSharePointを活用したE-learningでの受講にて、当院における感染対策に関する基礎知識の定着と感染対策の推進を行っている。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ☑・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病院長を含む病院運営協議会のメンバーを中心とした感染防止委員会（ICC委員会）および医師、看護師、コメディカル、事務等の各所属から代表者を選出して構成するICT委員会をそれぞれ月1回開催し、院内における感染症の発生状況やその対策について報告し、周知徹底を行っている。 さらに、これらのメンバーを中心としたメーリングリストを作成しており、「感染対策週報」として感染管理室長から毎週メールを配信することにより、当院における感染症発生状況を中心に、県内における感染症発生状況等の情報発信と情報共有を行っている。また、感染管理室員による週2回の環境ラウンド（集中ラウンド・全病棟ラウンド）、抗菌薬ラウンド（毎日）、耐性菌ラウンド（耐性菌検出時）、ICTミーティング（毎日）、ASTミーティング（毎日）など様々な方策で感染対策および抗菌薬適正使用に係る、推進・充実に向けた取り組みを行っている</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年30回（同一内容を複数日時で）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 「麻薬事故および麻薬の種類について」 e-ラーニング 注射剤の配合変化～〇〇注と△△注は混ぜて大丈夫？ 注射剤の配合変化～配合変化を回避するには？ 血管外漏出～血管外漏出をおこしやすい薬を中心に～ 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 年に1回、見直しを行っている。 医師・看護師、薬剤師のリスクマネージャーに対し、各所属で手順実施状況をチェックリストにより確認し、報告を上げ、チェック内容を確認している
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 切迫早産に対するニフェジピン（カルシウム拮抗剤）の使用について 切迫早産の治療の選択肢を拡げ、従来の薬剤が使用できない患者に対して妊娠期間の延長が期待できるニフェジピンを使用。産婦人科から申請があり、令和6年4月30日に承認された。ニフェジピンはリトドリン塩酸塩点滴静注液やマグセント注など既存の切迫早産治療薬と比較して子宮収縮抑制効果は高く、副作用の程度は同等もしくは低い。使用薬剤はニフェジピンCR錠20mg 1回1錠、最大1日4回まで、6時間毎に経口投与。令和6年11月14日から開始され、年間53人の使用が予定されている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟担当薬剤師、調剤室の薬剤師とともに未承認等の医薬品の情報を共有し、新規の申請情報や、既に申請のあった未承認等の医薬品における新規使用患者等の情報を医薬品情報管理係で集約し、未承認等の医薬品の審査を所管する高難度新規医療評価部と情報を共有している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 33 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 新規・中途採用職員研修 14件 2. 新規導入機器研修 13件 3. 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる機器研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工心肺、補助循環装置 4件 ・ 人工呼吸器 3件 ・ 血液浄化装置 1件 ・ 除細動器 3件 ・ 閉鎖式保育器 2件 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 3件 ・ 診療用放射線照射装置 4件 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺関連機器（補助循環装置）人工呼吸器、透析関連機器、除細動器（AED含む）、閉鎖式保育器、電気メス、麻酔器、高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、CTエックス線装置（医用X線CT装置）磁気共鳴画像診断装置（MRI装置）の定期点検の実施（生命維持管理装置と放射線装置に関してはメーカーによる点検を実施）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全推進室とともに、PMDAや日本医療機能評価機構・医療機器センターからの回収情報、インシデント情報、業者からの報告情報を収集し、院内職員への注意喚起、情報共有を行っている</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門 医療の質・安全管理センターから報告 ・医療安全管理委員会 同委員会の委員長 ・医薬品安全管理責任者 医薬品安全管理会議を所管 ・医療機器安全管理責任者 特定機能病院における医療機器関連の保守点検の計画・実施の報告を行う。医療機器安全管理会議の報告を行う</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 緊急性が高いイエローレターやブルーレターの場合には医局長にメール等で連絡し、迅速に周知するようにしている。医薬品・医療機器等安全性情報発出の際も、重大な副作用等を同様に連絡している。また、医薬品情報管理係にて病棟薬剤師からの副作用等の情報を入手、電子カルテデータや医事データからは使用量や査定情報を入手、ヒヤリハット報告などの情報を取得し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 病棟薬剤師や調剤担当の薬剤師が情報を入手時、未承認等の医薬品を使用された医師に高難度新規医療評価部への申請を促し、医薬品情報管理係に情報を集約する。医薬品情報管理係は高難度新規医療評価部と情報を共有し、審査で承認されたものは病棟薬剤師や各係に薬剤部内でも情報共有する。承認されたものについてのモニタリングは高難度新規医療評価部で行われ、未承認新規医薬品等評価委員会で報告される。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 平成29年7月制定の「インフォームドコンセントマニュアル」で定めた方法により、説明・同意</p>	

書が作成されているかの確認を、月1回開催している同意書等審議委員会において審議している。また、適切に実施されるよう医療従事者への指導等を実施した。

説明同意書の内容についても、適切であるかの見直しと不備分の再作成を依頼した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>各診療科別に、任意に抽出した患者の診療録の内容をチェックリストに基づき点検を行い、点検結果を診療科にフィードバックした。医局内での周知徹底を依頼した。</p> <p>【指導内容の主な内容】</p> <p>・退院時要約に関しては、医療機関間での情報共有も念頭に置き記載いただくよう促した。</p> <p>・インフォームドコンセントでは、院内の定型フォーマットの使用を推奨し他の選択肢等についての記載も促した。また、同席者や確認者についても院内フォーマットを作成し記載を行うよう促した。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（10）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （1） 医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。 （2） 医療事故及びインシデントに関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること。 （3） 医療事故等の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。 （4） 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導に関すること。 （5） 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。 （6） 医療事故等の改善策の実施状況の評価、再発防止に向けての検討に関すること。 （7） 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。 （8） 患者等や職員からの医療・診察の安全に関する相談及び連絡調整に関すること。 （9） リスクマネージャーによる医療安全推進活動に関すること。 （10） 肺血栓塞栓症予防体制の確立に向けた活動に関すること。 （11） 呼吸サポートチームの活動の調整、記録物等の保管に関すること。 （12） 医薬品安全管理に関すること。 （13） 高度医療の安全管理に関すること。 （14） 病院倫理委員会の事務に関すること。 （15） 医療の質向上に関すること。 	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（19件）、及び許可件数（18件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・事前に申請診療科等より申請概要のヒアリングを実施し、留意事項を伝達、十分な準備を求める
 - ・申請書や説明同意書等の記載文案等について、内容の不備等を検証 必要に応じ改善要請
 - ・高難度新規医療評価部及び高難度新規医療技術評価委員会で審議を実施
 - ・承認後は症例報告や関連部署からの実施（予定）情報等に基づき、モニタリングを実施
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（26件）、及び許可件数（22件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

事前に申請診療科等より申請概要のヒアリングを実施し、留意事項を伝達、十分な準備を求める

 - ・申請書や説明同意書等の記載文案等について、内容の不備等を検証 必要に応じ改善要請
 - ・高難度新規医療評価部及び未承認新規医薬品等評価委員会で審議を実施
 - ・承認後は症例報告や関連部署からの実施（予定）情報等に基づき、モニタリングを実施
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年572件（令和6年度）

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年185件(3b以上)

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

インシデント、アクシデント報告のうち重大事案について概要及び所属カンファレンスで検討した改善方策について評価・審議し、審議結果を所属にフィードバックを行う。更に、分析・対策検討会議からの再発防止策の立案、実行、検証見直しに関する報告を評価・審議する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：富山大学附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：琉球大学病院）・無）

・技術的助言の実施状況

オカレンス報告について、現場の意向を優先されていると思われるが、手術件数が多いため帳票でなく入力できるシステムにすると集計作業など効率化やタイムリーな可視化が測れる。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合相談窓口（医療相談室 相談係）、患者・家族支援室

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

「医療安全の考え方～あなたの大切な人をどこで治療しますか～」

「当院のインシデントの傾向～インシデント集計報告～」

「多職員間コミュニケーションのピットフォール～心理的安全性を考える～」

「医療紛争に備えるⅢ～裁判に発展しないために～」

「医療におけるチームコミュニケーション」

の5テーマを設定し、e-ラーニング形式で開催。5テーマのうち2テーマ以上受講で受講完了
受講対象者 2336名、受講完了率 100%（2023年度 100%）となった

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者・医療安全管理責任者・医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、2024年度特定機能病院管理者研修を受講済。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

① 機能評価 2022年10月 一般病院3 (3rdG : Ver2.0) 受審

2024年2月に再度確認審査を受審。2025年5月最終確認審査受審。

②医療安全監査委員会5月・3月 (外部監査)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

医療安全・質向上のための相互チェック及び特定機能病院間相互のピアレビュー実施

・評価を踏まえ講じた措置

①インフォームドコンセント、高難度のモニタリング、BLS研修、RRS・RRT、手術マーキング等について指摘があり、各項目について改善に取り組んでいる。

④ 1回目の委員会での指摘、助言に対して2回目の委員会で措置内容を報告

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

- 1 人格が高潔であること
- 2 臨床研修等修了医師であること
- 3 医療の安全確保のために必要な資質及び能力を有していること
- 4 人との信頼関係を重視し、社会規範、コンプライアンスを遵守できること
- 5 奈良県立医科大学附属病院の理念を実現するための熱意、戦略、実行力があり、将来ビジョンを有すること
- 6 組織管理能力等、当院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有していること
- 7 法人の運営について、他の役員と一致団結して、公立大学法人奈良県立医科大学の発展に貢献できること
- 8 医療従事者の新しい働き方についてリーダーシップを発揮できること
- 9 臨床研究を推進するための戦略と実行力を有すること

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

大学Webサイトに掲載する方法により公表している。

奈良県立医科大学附属病院長選考基準

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/byouintyousenkou2023.html>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無

有・無

- ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 医療法施行規則（平成30年厚生労働省令第70号）第9条の23の規定にかかる特定機能病院の管理・運営に関する重要な事項及び病院経営・運営方針等院務に関する重要な事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 院内全所属の所属長が委員であるので、所属に持ち帰って周知を行う。 加えて、実務を担当している医局長が参加する医局長会でも、運営協議会での審議内容を議題とすることにより、広く周知を図っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉川 公彦	○	医師	附属病院長
彦惣 俊吾		医師	診療科部長
室 繁郎		医師	副院長・診療科部長
吉治 仁志		医師	診療科部長
笠原 敬		医師	診療科部長・感染管理室長
杉江 和馬		医師	診療科部長
庄 雅之		医師	診療科部長
中川 一郎		医師	診療科部長
細野 光治		医師	診療科部長
木村 文則		医師	診療科部長
加瀬 諭		医師	診療科部長
野上 恵嗣		医師	診療科部長
岡田 俊		医師	診療科部長
藤本 清秀		医師	診療科部長
北原 紘		医師	診療科部長
田中 利洋		医師	診療科部長
磯橋 文明		医師	診療科部長
川口 昌彦		医師	副院長・診療科部長
福島 英賢		医師	診療科部長
吉本 清巳		医師	診療科部長
桑原 理充		医師	診療科部長

城戸 颯		医師	診療科部長
吉澤 明彦		医師	診療科部長
濱路 政嗣		医師	診療科部長
鶴屋 和彦		医師	診療科部長
高橋 裕		医師	診療科部長
武田 真幸		医師	診療科部長
松本 雅則		医師	診療科部長
山崎 正晴		医師	中央診療施設の長
玉本 哲郎		医師	中央診療施設の長
四宮 敏章		医師	中央診療施設の長
山岸 正明		医師	中央診療施設の長
倉田 主税		臨床検査技師	技師長
森岡 雅幸		診療放射線技師	技師長
畠中 利英		歯科技工士	技師長
池田 和之		薬剤師	薬剤部長
石飛 悦子		看護師	副院長・看護部長
藤田 幸男		医師	栄養管理部長
赤井 靖宏		医師	臨床研修センター長
笠原 正登		医師	臨床研究センター長
辰巳 満俊		医師	副院長・医療安全管理責任者
今村 知明		医師	法人特命企画官
木村 茂和		事務	事務局長
西橋 奈穂		事務	病院経営部長
高井 克実		事務	経営企画課長
村井 裕司		事務	病院管理課長
中村 泰英		事務	医療サービス課長
瀬川 直樹		事務	医療相談室長
上野 聡		事務	法人企画部次長（財務企画課事務取扱）
古川 義富美		事務	総務広報課長
森田 英之		事務	人事課長
山崎 則男		事務	施設マネジメント課長
松木 正		事務	情報推進課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
奈良県立医科大学のHP（規程集）に掲載。
- ・ 規程の主な内容

奈良県立医科大学附属病院長職務規程 （職務権限）

第2条 附属病院長は、次の各号に定める職務を行う。

- (1) 病院の経営に関すること
 - (2) 病院の管理運営に関すること
 - (3) 病院の人事に関し、理事長に上申すること
 - (4) 病院職員の資質向上のために必要な研修に関すること
- 2 附属病院長は、病院における全ての業務を総括し、その責任を有する。

公立大学法人奈良県立医科大学会計規程施行細則

- 2 理事長の事務の委任（規程第3条関係）理事長の事務の委任を受ける者、範囲及び権限は別表1のとおりとする。 →別表1を添付。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：病院長の補佐

事務長：病院長の下、病院事務を統括

院長ガバナンス支援タスクフォース：関係部署による病院長ガバナンス強化のサポート

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

診療情報管理士の資格取得の支援

法人職員の県派遣実務研修の実施

国立大学法人の研修に参加

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理に係る事項を監査し、是正措置を講ずるよう意見具申を行う。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・ 公表の方法：本学ホームページにおいて一般に公開</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中村 猛	京都府立医科大学 大学附属病院	○	京都府立医科大学 病院 医療安全推 進部長であり、医 療にかかる安全に 関する識見を有す るため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
加藤 高志	加藤高志法律 事務所		医療に関する訴訟 経験が豊富であ り、法律に関する 識見を有するため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
森下 順子	ボランティア グループ		病院の状況への理 解が深く、医療を 受ける側の立場か らの客観的意見を 得られるため。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

書面により会計等に係る監査を実施

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <div style="margin-left: 20px;">役員会では、附属病院の予算決算等の管理運営に関する審議事項があり、理事長（開設者）が病院業務に關与して監督している。</div> ・ 会議体の実施状況（ 年45回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年45回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 : 窓口の公表

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	

(様式第 8-1)

番 号
令和 年 月 日

厚生労働大臣 殿

開設者名

〇〇病院の紹介率及び逆紹介率の向上に関する年次計画について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	. %	逆紹介率	. %
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数			人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			人
	D: 初診の患者の数			人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

2 紹介率及び逆紹介率向上のための基本方針と向上のための具体的な予定措置

(注) 「紹介率」又は「逆紹介率」のうち、承認要件を満たしていないものについてのみ記載すること。

3 年次計画

(1) 紹介率

計画期間	平成・令和 年 月 日 ~ 平成・令和 年 月 日
年次目標紹介率	第1年度 (平成・令和 年度) . %
	第2年度 (平成・令和 年度) . %
	第3年度 (平成・令和 年度) . %
	第4年度 (平成・令和 年度) . %
	第5年度 (平成・令和 年度) . %

(注)「紹介率」が、承認基準を満たしていない場合についてのみ記載すること。

(2) 逆紹介率

計画期間	平成・令和 年 月 日 ~ 平成・令和 年 月 日
年次目標紹介率	第1年度 (平成・令和 年度) . %
	第2年度 (平成・令和 年度) . %
	第3年度 (平成・令和 年度) . %
	第4年度 (平成・令和 年度) . %
	第5年度 (平成・令和 年度) . %

(注)逆紹介率が、承認要件を満たしていない場合についてのみ記載すること。

(様式第 8-2)

番 号
令和 年 月 日

厚生労働大臣 殿

開設者名

〇〇病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率、2 逆紹介率

(注) 上記のうち昨年度年次計画を提出したものの番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。

公立大学法人奈良県立医科大学会計規程施行細則
別表1 事務委任の範囲等(「3 会計管理者」関係)

支出		権限区分							摘要
		理事長	会計管理部門			執行部門			
項目	経費の種類		会計管理者 (総務・経営担当理事)	会計管理者の一部事務受任者 (法人企画部長)	会計管理者の一部事務委任者 統括会計員 (財務企画課長)	予算責任者 (総務・経営担当理事) (教育・研究担当理事) (医療担当理事)	統括経理責任者 (法人企画部長) (病院経営部長)	経理責任者 (各課・室長等)	
予算執行承認権限 (購入依頼書又は事業執行伺書等)	備品(工具・器具及び備品、備品費など)	法人の運営・経営に重大な影響を及ぼす執行など会計管理者が理事長の承認を必要と判断する場合	5,000万円以上	1,000万円以上5,000万円未満	100万円以上1,000万円未満	500万円以上1,000万円未満	100万円以上500万円未満	100万円未満	1. 公立大学法人奈良県立医科大学契約規程第22条第1号及び第7号の規定に基づき、随意契約しようとする場合にあっては、支出契約と併せて予算執行承認を行うことを可とする。(細則18(1)) 2. 予算責任者及び統括経理責任者で承認されるものについては、統括会計員の確認が必要
	施設・設備整備(修繕に属するものを除く)		5,000万円以上	1,000万円以上5,000万円未満	100万円以上1,000万円未満	500万円以上1,000万円未満	100万円以上500万円未満	100万円未満	
	報酬謝金費、報償金、報償金、食糧費、交際費、補助金、助成金		100万円以上	○	30万円以上100万円未満	30万円以上100万円未満	30万円以上100万円未満	30万円未満	
	寄附、賠償		すべて	○	○	○	○	○	
	人件費		すべて	○	○	○	○	○	
	資金運用(有価証券の取得等)		すべて	○	○	○	○	○	
その他の支出	5,000万円以上	1,000万円以上5,000万円未満	100万円以上1,000万円未満	500万円以上1,000万円未満	100万円以上500万円未満	100万円未満			
支出契約決議承認権限 (支出契約決議書等)	備品・施設整備	-	-	-	100万円以上	-	100万円以上1,000万円未満	100万円未満	経理責任者に承認権限のあるものについては、簡易な方法により支出契約決議の承認を行うことを可とする。(細則19(3))
	上記以外全て	-	-	-	100万円以上	-	100万円以上1,000万円未満	100万円未満	
債務確認等承認権限 (債務計上一覧表、経費精算書、立替経費精算書、仮払申請書、仮払精算書、予算執行振替伝票)	すべて	-	-	-	すべて	-	-	○	

(注1) 単価契約については、予定単価に執行見込み件数を乗じて算出される金額を持って承認権限を区分する。

(注2) 複数年契約については、1力年の価格ではなく、契約期間総額を持って承認権限を区分する。

(注3) 予算執行の承認権限は、執行価格ではなく、予定価格を持って区分する。

(注4) 軽微なものについては、公立大学法人奈良県立医科大学事務決裁規程第5条に規定する代決者が、上記に記載するそれぞれの承認権限者から委任を受け代理で承認することができるものとする。この場合あらかじめ承認権限者と代決者が委任する範囲を協議しておくこと。

収入		権限区分							摘要
		理事長	会計管理部門			執行部門			
項目	経費の種類		会計管理者 (総務・経営担当理事)	会計管理者の一部事務受任者 (法人企画部長)	会計管理者の一部事務委任者 統括会計員 (財務企画課長)	予算責任者 (総務・経営担当理事) (教育・研究担当理事) (医療担当理事)	統括経理責任者 (法人企画部長) (病院経営部長)	経理責任者 (各課・室長等)	
債権発生の前提となる契約、申出の受諾、申請等の承認	寄附金	○	○	○	○	○	○	○	
	寄附金以外全て (理事長名で契約等を行う場合)	-	すべて	○	○	○	○	○	
	寄附金以外全て (予算責任者名で契約等を行う場合)	-	-	-	○	統括経理責任者が必要と判断する場合	○	○	1,000万円未満で、予算責任者名での契約等が可能なもの
債権の計上、入金の確認 (債権計上一覧表、(予算執行)振替伝票、入金実績リスト処理分)	授業料(自動引落分)、診療収入など(振替伝票処理分)	-	-	-	すべて	-	-	○	
	上記以外全て (債権計上一覧表、入金実績リスト処理分)	-	-	-	すべて	-	-	○	